

第二百六十二條 訴訟及び裁判費用ハ裁判廳ノ見込ヲ以テ之ヲ償ハシム可シ但シ裁判上ヨリ生スル費用ハ其裁断セシ事ノ曲直ニ関セス之ヲ原被双方ヨリ償ハシム可シトモ其訴訟ハ費ハ負訴訟者ヨリ之ヲ償ハシム可シ

第二百六十三條 訴訟事件ニ付キ裁判廳ニテ相当ト思量スル時ハ審判ノ前又ハ審判中何時ヲ問ハス其費額ノ為メ適當ノ質物或ハ其他ノ担保ヲ出サシムルヲ得可シ

貧人ノ事

第二百六十四條 現ニ貧困者ノ訴訟ヲ為ス時裁判廳ニテ其訴訟ノ適當タルヲ認ムル時ハ

貧人取扱法ニ從ヒ許ヲ為スヲ允許ス可シ又被告人ノ前ニ同シク貧困ナル時モ貧人取扱法ニ從ヒ訴訟ノ辯論ヲ為スヲ允許ス可シ

第二百六十五條 貧人取扱法ニ從ヒ原告或ハ被告タル可キ允許ヲ為シタル者ヲ保護スル為メ裁判廳ニテ代言人ヲ命スル時ハ其代言人ハ之ヲ肯セサル可カラズ但シ已ムヲ得サル事故アル時ハ此例ニ非ス

第二百六十六條 然レモ若シ其貧人ノ裁判廳ニ請求スル事件ニ付キ急速ノ裁断ヲ要スルカ為メ手数料ヲ出シ或ハ利益ヲ分テ或ハ謝金ヲ贈リ又ハ此等ノ事ヲ為ス可キ約ヲ結ビ

シ時ハ裁判廳ヲ凌侮スル罪アリト為シ直チ
ニ之ヲ貧人ニ非サル者トス可シ但シ此場合
ニ於テハ其訴訟ニ付テ再ヒ貧人取扱法ニ從
ヒ原告及ヒ被告タルノ允許ヲ與ルナカ
ル可シ

第二百六十七條 貧人取扱法ニ從ヒ原告及ヒ
被告タルノ允許ヲ為ス時裁判廳ニテ其者ノ
貧人タラサルヲ認ムル時又ハ其行為ノ不相
當ナル時ハ裁判所ノ命ヲ以テ直チニ之ヲ貧
人ニ非サル者ト為スヲ得可シ

期限ヲ算スル法

第二百六十八條 此法ニ循ヒスハ裁判廳ノ特
命又ハ裁判廳ノ都合ニ因リ或ハ命ニ或ハ許

ス總テノ期限ハ時間ヲ以テ算ス可カラズ但
シ期限ヲ算スルニハ其事件ノ生セシ日ヲ除
棄シ其次日ヨリ之ヲ起算シ其最終ノ日ニ至
リ終ル可シ

第二百六十九條 裁判廳ヨリ命スル期限ノ日
數六日以内ナル時ハ日曜日耶蘇祭日及ヒ耶
蘇祭日前後ノ兩日ヲ其期限内ニ算入ス可カ
ラス

第二百七十條 若シ其期限ノ前条ニ記列セシ
諸祭日ニ當リ終ル時ハ其次日ニ至リ処分ス
可シ但シ其次日モ亦祭日ナル時ハ此限ニ非
ス

第二百七十一條 原告人ニ裁判費額ノ抵当ヲ

出ス可キヲ命セシ日ヨリ其抵當ヲ出ス迄ノ
期限ハ被告人ノ答弁期限内ニ之ヲ算入ス可
カラス

追加書類ノ事

第二百七十二條 訴訟ヲ為セシ後更ニ生シタ
ル事情ヲ其訴状又ハ答辯昏中ニ記入セント
要スル時ハ裁判廳ノ許ヲ得タル上更改法ニ
從ヒ其事情ヲ記入スルヲ得可シ但シ裁判廳
ニテ其事情ノ適當タルヲ思フ時ハ之ヲ許シ
其記入セシ箇条ヲ裁判廳ノ黙検ニ供ス可キ
旨ヲ命ス可シ

原被一方ノ死去及ヒ其他變故ノ生セ
シ時ノ事

第二百七十三條 訴訟ノ未決中ニ原被一方ノ
死去シ或ハ婚嫁シ或ハ其訴訟中ニ過失又ハ
失當ノ事アル時ノ如ク故障ノ生セシ時ハ其
訴ニ關係スル一方ヨリ其過失ヲ補ハシム可
キ命令書或ハ其事件ヲ取扱ハシムル為メ相
當ノ人ヲ擇ム可キ命令書ヲ裁判廳ニ願ヒ求
ムルヲ得可シ

裁判廳ニテハ右命令昏ヲ願ヒ出テタル者ノ
為メ期限ヲ定メ其期限内ニ訟延ヲ開ク可シ
但シ其日數ハ十四日ヲ越ユ可カラス

裁判延期ノ事

第二百七十四條 裁判ヲ延期スルト否トハ之
ヲ判司ノ意見ニ任セ其規則ハ此法令中ニ掲

載セス但シ裁判ヲ延期セシ時ハ其趣ヲ裁判
手續書中ニ登記ス可シ

更改書類ノ事

第二百七十五條 訴状、答辯書、達状及ヒ其他ノ
令状ノ更改ヲ許スト否トハ之ヲ判司ノ意見
ニ任セ其規則ハ此法令中ニ掲載セス但シ書
類ヲ更改セシ時ハ其趣ヲ裁判手續書中ニ登
記ス可シ

期限ニ付キ裁判廳ノ推義ノ事

第二百七十六條 處分ヲ為ス可キ為ノ或ハ命
シ或ハ許ス期限ノ長短ハ之ヲ判司ノ意見ニ
任セ其規則ハ此法令中ニ掲載セス但シ其長
短ハ之ヲ裁判手續書中ニ登記ス可シ

第二百七十七條 此法令ニ循ヒ或ハ其他ノ法
令ニ循ヒ命セシ所ノ期限中裁判廳ニ於テ延
期ヲ許シ其延期中更ニ又延期ヲ願ヒ出テ夕
ル時裁判廳ニテ其延期ハ故ラニ遲滯スルニ
非ス正當ノ事タルヲ認ムルニ於テハ之ヲ許
ス可シ

後見人ノ事

第二百七十八條 原告人ノ訴状ヲ出セシ後被
告人ノ幼年又ハ昏愚ナルカ為メ其答弁或ハ
辨駁ヲ誤リ訴訟ヲ為ス能ハサルヲ裁判廳ニ
テ認ムル時ハ原告人ノ願ニ因リ又ハ裁判廳
ノ意見ヲ以テ被告人ニ相当ノ後見人ヲ命ス
可シ

此場合ニ於テハ各辨期限ヲ經過セシ後訴訟ノ向_レ糾ノ期日ヲ其日ヨリ少クモ四日前或ハ(時宜ニヨリ)裁判廳ノ都合ニ從_レ違状ヲ以テ命ス可ク且ツ其違状ハ被告人ノ訴出セラレシ時其後見ヲ為シタル者ノ住家ノ内外ヲ問ハス其後見人ニ交付シ又父又ハ後見人ト同居セサル幼者ナル時ハ其父又ハ後見人ノ住家ノ内外ヲ問ハス其父又ハ後見人ニ交付ス可シ但シ裁判廳ニテ此方法ヲ以テ送達スルヲ許_レリ、ル時ハ此例ニ非ス

第十三節 刑事

総論

第二百七十九条 刑事ノ條目中ニ掲クル諸規

則ハ總テ裁判上廳ニ関スルモノニシテ其文中ニ「コ_レ」ト「ル_ト」ノ字アルハ時宜ニ因リ上廳ノ官吏及ヒ其屬負_テ指スモノタリ
裁判上廳ハ其受理スヘキ刑事ノ訴訟ヲ処断スルノ權アリ

第二百八十条 第三十一ノ書式ニ準シタル告罪状ヲ記スル者ハ其訴人或ハ法律上其推義ヲ有シタル代言人代理人ニ限ル可シ

第二百八十一条 訴出セシ罪ヲ簡易法ヲ以テ聽断スルト否トヲ論セス其犯人ニ未タ警守人ヲ附セサル時ハ時宜ニ因リ第三十二ノ書式ニ準シタル呼出状又ハ第三十三ノ書式ニ準シタル最初ノ逮捕状ヲ出ス可シ

呼出状ノ事

第二百八十二条 裁判廳ノ命令アルニ非カレ
ハ呼出状中ニ具罪状ヲ記入シ或ハ誓約ヲ要
スルヲナシ
右呼出状ハ之ヲ其本人ニ交付ス可シ但シ時
宜ニ因リ本人ニ面スルヲ得サル時ハ管轄内
ニ在ル其住家ト營業ノ為メ住居スル場所ト
ヲ問ハス現ニ本人ニ面ス可キ場所ニ於テ之
ヲ交付ス可シ
呼出状ヲ受ケシ者ハ其犯罪ノ証拠ヲ辨明ス
ル為メ其呼出状中ニ記載シタル日ニ其場所
ニ出ツ可シ

逮捕状ノ事

第二百八十三条 呼出状ヲ受ケシ者其呼出状
ニ記スル日ニ出テサル時ハ呼出状ノ効ニヨ
リ裁判廳ニテ第三十四ノ書式ニ準シタル逮
捕状ヲ出ス可シ
右逮捕状ハ呼出状ヲ以テ裁判廳ニ出ツ可キ
旨ヲ命シタル日ノ内外何時ヲ問ハス之ヲ出
スルヲ得可シ
最初ノ逮捕状ハ犯罪ヲ訴フ可キ者或ハ証拠
人ノ誓書ヲ出セシ上ニ非カレハ之ヲ出ス可
カラス
逮捕状ハ其時々裁判廳ニ還納スルヲ要セス
必断ニ至ル迄之ヲ保有ス可シ
逮捕ノ執行ハ其管轄内何レノ地ヲ問ハス之

ヲ為スルヲ得可ク又時宜ニ因リ犯者追搜ノ
為ノ他管内ニ至ル時ハ其地所在ノ裁判廳ニ
請フニ及ハス其所轄内何レノ地ト虽モ其犯
者ヲ逮捕スルヲ得可シ

搜索状ノ事

第二百八十四条 裁判廳所轄内ノ或ル家屋又
ハ或ル場所ニ於ケル犯罪ノ確証又ハ信拠ス
可キ疑事アルヲ訴ヘ出テ具訴ヘ出テシ者其
裁判所管下ノ者タル時裁判廳ニテ其家屋又
ハ其場所ヲ搜索ス可キ命令状ヲ出ヌハ其
執行ヲ任ス可キ官吏ノ名ヲ指シ以テ之ヲ下
付ス可シ但シ其官吏ハ已レノ助ケトナル可
キ他ノ者ヲモ隨行スルヲ得可シ

右執行ハ命令状中ニ示マシ家屋及ヒ場所ノ
外一般ニ之ヲ及ホス可カラス

右ノ場合ニ於テ若シ其家屋或ハ場所ヲ閉鎖
シタル時ハ其官吏ハ先ツ其来リシ縁由ヲ告
ケ之ヲ開ク可キヲ求メ猶閉鎖シタル時ハ公
ケノ威力ヲ以テ其内ニ入ルヲ得可シ
又信拠ス可キ疑事アルカ為メ命令状ヲ出ヌ
ハ晝日中ニ限ル可シ然レモ確証アル時ハ夜
中ト虽モ之ヲ出スルヲ得可シ

保証人ノ事

第二百八十五条 管轄内ニ任スル英國人民ノ
原告若シタハ被告ノ為メ其証拠ヲ辨明ス可
キ誓約ヲ為シ其下吟味或ハ簡易法ヲ以テ問

糾ヲ為ス時欠席セシ者ハ第三十五ノ各式ニ
準シタル呼出状ヲ出シ其出席ヲ命ス可シ

第二百八十六条 呼出ヲ受ケシ証人具呼出状
ニ記セシ日ニ出席セス且ツ其出席セリル事
由ノ陳述ヲ裁判廳ニテ聽許ス可カラサル時
ハ呼出状ノ効ニ因リ第三十六ノ書式ニ準シ
タル逮捕状ヲ出ス可シ

第二百八十七条 管轄内ニ住スル英國人民ノ
原告或ハ被告ノ為メ其証拠ヲ弁明ス可キ誓
約ヲ為シ其下吟味或ハ簡易法ヲ以テ問糾ヲ
為ス時欠席セシ事由ノ故意ニ出ルニ於テハ
呼出状ヲ出スナク直クニ第三十七ノ書式
ニ準シタル逮捕状ヲ出ス可シ

第二百八十八条 右呼出状或ハ逮捕状ニ因リ
裁判廳ニ出テタル者若シ証人トナリ其問糾
ノ答弁ヲ為スラ肯セサル時裁判廳ニテ之ヲ
聽許ス可アラサルニ於テハ第三十八ノ書式
ニ準シタル命令状ヲ出シ其者ニ七日ヨリ多
カラサル繫獄ヲ命ス可シ但シ繫獄中其答弁
ヲ為ス可キヲ承諾セシ時ハ以限ニ非ス
日曜日及ヒ祭日ニ逮捕状繫獄状等ヲ
出ス事

第二百八十九条 事ノ急速ヲ要スル為メ止ム
ヲ得サル場合ニ於テハ日曜日及ヒ耶蘇祭日
等ト雖モ平日ノ如ク逮捕状繫獄状又ハ其他
ノ命令状及ヒ搜索状ヲ出スヲ得可シ

第二章 下吟味及ヒ定例ノ裁判手續ノ事

第二百九十条 此條目中ニ掲クル規則ハ總テ定例ノ裁判ニ関スルモノタルハ簡易法ヲ以テ同紀裁斷ヲ為ス事件ニ之ヲ及ホス可カラズ

下吟味ノ事

第二百九十一条 呼出状及ヒ逮捕状ニ因リ裁判廳ニ出テシ犯人ニ付テハ裁判廳ニテ未タ之レニ吟味中ノ禁獄ヲ命セス或ハ之ヲ身元請人ニ下付セサル前ニ其犯人ノ面前ニ於テ其犯罪ノ事實景状ヲ熟知セシ人ノ口供得テ式ノ書ヲ記シ之ヲ藏シ置ク可シ

第二百九十二条 右犯人ハ証人ノ申立ニ對シ隨意ニ弁論スルヲ得可シ但シ此場合ニ於テ其証人ノ答弁書ハ其口供ノ昏式ノ体裁ニ從フ可シ

第二百九十三条 各証人ノ口供ハ其証人ニ讀聞カセ署名セシム可シ

第二百九十四条 犯人ヲ審判スルニ當リ口供日結セシ人(証人)ノ死去シ或ハ疾病ニ因リ審判ノ席ニ出ツル能ハサル時其口供ノ犯人ノ面前ニテ之ヲ記シ又ハ其口供人或ハ其代理代言人或ハ証人ノ對審ヲ經シモノタル証ノ判然タルニ於テハ他ノ証人ヲ要セス其口供ヲ以テ罪犯ノ証ト為スヲ得可シ

第二百九十五条 諸罪科ヲ鞫問スル前ト虽モ
實際上ト其出訴シタル証拠トノ間ニ錯誤或
ハ差異アル時ハ呼出状逮捕状ヲ出スルヲ得
可シ但シ此場合ニ於テ若シ其差異ノ全ク詐
欺ニ出テシテ裁判廳ニテ認ムル時ハ其犯人
ノ求メニ應シ之レカ裁判ヲ延期シ且ツ其犯
人ハ延期中ニ拘留シ又ハ之ヲ身元請人ニ
下附ス可シ

犯人口供ノ事

第二百九十六条 証拠人ヲ審問セシ後ニ裁判
廳ニテハ証拠人ノ出席ヲ要セス其口供ヲ犯
人ニ読聞セ判司左ノ言渡ヲ為ス可シ
一 汝ケ此口供ヲ聞キ汝ノ犯罪ニ付キ弁明

ス可キ事アルヤ

一 汝ケ辨明スルヲ欲セサレハ徒ラニ勞
スル勿レ然レモ今汝ノ弁明スル所ハ何
事ヲ問ハス之ヲ筆記シ汝ヲ審判スル証
拠ニ供ス可シ

一 汝ハ毫モ自言ニ動カサレス又汝ハ汝ヲ
罪ニ服セシメ又ハ其罪ヲ白状セシムル
為ノ用ヒタル脅壓ニ毫モ畏懼セサリシ
ヤ審カニ之ヲ省思ス可シ若シ然ラサレ
ハ今汝ノ弁明セシトハ自言脅壓ノ如何
ヲ問ス汝ヲ審判スル時ノ証拠ニ供ス可シ
此場合ニ於テ犯人答弁セシ時ハ其次第ヲ
第四十ノ格式ニ準シ詳記シタル上之ヲ其

犯人ニ讀ミ聞セ証人ノ口供ト同シク裁判廳ニ藏メ置キ且後裁断ノ時ノ証ト為ス可シ

第二百九十七條 然レモ告訴人ヨリ犯人ノ白狀書及ヒ其他犯罪ノ証書ヲ証人ノ為メ裁判廳ニ出スハ敢テ妨ケナク且ツ以法令ニ関セサルモノトス但シ右証人各類ハ法律上ニテ之ヲ犯罪ノ証ト為ス可シ

公廳ノ事

第二百九十八條 下吟味席ハ公ケノ裁判廳ニ非ス故ニ裁判廳ニテ犯人ヲ正直ニ白狀セシム可キ見込アル時ハ一人トモ裁判廳ノ許ナキ者ノ下吟味ノ席ニ入ルヲ許サ、ルヲア

ル可シ

証據ヲ告訴シ及ヒ弁明ス可キ証人ノ事

第二百九十九條 裁判廳ニテハ下吟味ノ時ニ告訴人及ヒ証人ニ命シ罪犯ヲ告訴シ或ハ告訴及ヒ証人ヲ弁明シ又ハ(時宜ニ因リ)証人ノ弁明ノ為メ審判ノ時其裁判廳ニ出席ス可キ証書^{第一書式}ヲ出サシム可シ
前ト同時ニ第四十二ノ書式ニ準シタル違狀ヲ誓約ヲ為シタル各人ニ渡ス可シ
若シ以時証人ノ誓約ヲ肯セサルニ於テハ第四十三ノ書式ニ準シタル命令狀ヲ出シ其罪犯ノ審判ニ至ル迄其者ニ禁獄ヲ命ス可シ但

シ禁獄中ニ誓約ス可キヲ承服セシキハ此例ニ非ス

然レモ其後罪犯ノ証拠充分ナラザルカ又ハ他ノ事故アリテ其犯人ニ審判中ノ禁獄ヲ命セス又ハ之ヲ身元引請人ニ附セザル時ハ裁判廳ノ意見ヲ以テ其証人ヲ放免スルヲアル可シ

拘留ノ事

第三百條 証人ノ欠席又ハ他ノ事故ニ因リ止ムヲ得ス下吟味ヲ延ス時ハ其犯人ヲ裁判廳ニテ再ヒ呼出ス迄第四十四ノ書式ニ準セシ命令状ヲ出シ之ヲ獄舎或ハ他ノ安全ノ場所ニ拘留ス可シ但シ其日数ハ十四日ニ越ユ可シ

然レモ其拘留ノ八日或ハ八日以内ナル片ハ判司ノ口達ヲ以テ従前其犯人ヲ監守シタル官吏又ハ官吏ニ非ザル者及ヒ其事ニ関ス可キ他ノ官吏又ハ官吏ニ非ザル者ニ更ニ其犯人ヲ監守セシメ再吟味ノ時連レ来ル可キ旨ヲ命ス可シ但シ其犯人ハ右拘留ノ期限中ト虽モ之ヲ連レ来ル可キ旨ヲ命スルヲ得可シ又右期限中ト虽モ裁判廳ニテ適當タルヲ思フ時ハ犯人ヲ拘留スルニ代ヘ保証人ノ有無ヲ問ハス第四十五ノ書式ニ準シタル証書ヲ出サシメ之ヲ放免スルヲ得可シ前ノ同時ニ第四十五ノ書式ニ準シタル連状

ヲ誓約ヲ為シタル各人ニ渡ス可シ

繫獄状ノ事

第三百一糸 下吟味ノ時犯罪ノ証拠ニ付キ訴
出セシ者ヲ問糾スト虽モ裁判廳ニテ其犯人
ヲ審断ス可キ事由ナキヲ思量スル時ハ其犯
者若シ監守中ナレハ直チニ放免ノ命ヲ下ス
可シ

又之レニ及シ審断スル証拠ノ判然タル時ハ
直チニ第四十七ノ書式ニ準シタル命令状ヲ
出シ法律ニ照シテ之レヲ審断スル迨其犯人
ニ入獄ヲ命ジ或ハ之ヲ身元請人ニ附ス可シ

身元請人ノ事

第三百二條 左ノ犯罪ニ付キ訴出シタル時ハ

裁判廳ノ意見ヲ以テ其訴出セシ時ト入獄中
未タ審判ヲ為サ、ル前トヲ問ハス何時ニテ
モ其犯人ヲ吟味中ノ入獄ニ代ヘ身元請人ニ
附ス可シ即チ其罪名ハ左ノ如シ

一 重罪犯

一 重罪ヲ犯サント謀ル者

一 重罪ヲ犯サントセシ者

一 詐欺ヲ以テ財産ヲ得タル者或ハ得ントセ

シ者

一 贓物或ハ財産ヲ得タル者或ハ其財産ヲ受

ケタル者

一 偽誓ノ罪ヲ犯シタル者或ハ之ヲ犯スヲ誑

誘セシ者

一 密葬及ヒ其他ノ所為ヲ以テ出生ノ子ヲ隠クシタル者

一 故意ヲ以テ膚體ヲ露ハス者

一 騷擾ヲ起セシ者

一 縣令或ハ裁判廳官吏ノ職務上ニ妨害ヲ為スヲ謀ル者或ハ之ニ党セシ者

一 縣令或ハ裁判廳官吏ノ其職務ヲ怠リ或ハ之レニ背キシ者

右ニ記例シタル罪名外ノ輕罪ニ付訴出シタル時ハ一般ニ其犯人ヲ身元引請人ニ付ス可シ

第三百三條 故殺或ハ及逆ノ罪ヲ犯シタル犯人ハ裁判上廳ノ判司ノミ之ヲ身元受人ニ付

スルヲ得可シ

第三百四條 裁判上廳ノ判司ハ諸犯人ヲ身元受人ニ附ス可キ道理アル時ハ之ヲ附スルヲ得レモ裁判分廳ニ於テハ犯罪ノ訴ニ付キ其犯人ヲ身元受人ニ附スルヲ得ス

第三百五條 身元請人ニ附ス可キ犯人ニハ裁判廳ノ意見ヲ以テ更ニ審判ヲ為ス可キ日ニ其場所ニ出ツ可キ充分ノ保証ヲ立テシメ第四十五ノ書式ニ準シタル証書ヲ出リシム可シ

右ト同時ニ第四十六ノ書式ニ準シタル違狀ヲ具誓約ヲ結ヒシ各人ニ渡ス可シ

犯人ノ特權ノ事

第三百六条 下吟味ノ終リニ後何時ヲ問ハス
犯人ハ吟味中已レノ入獄ヲ命セラレ或ハ身
元請人ニ附セラレシ其口供ノ写ヲ有スルヲ
得可シ但シ此場合ニ於テハ百語ニ付キ六片
ニ過ケル字字料ヲ拂ハシメ或ハ裁判廳ノ命
令ニ因リ字字料ヲ拂ハシメス之ヲ給与スル
ヲアル可シ
右入獄或ハ身元請人ニ引渡中具犯人ニ具有
ス可キ權利ヲ言渡ス可シ

裁判準備ノ事

第三百七条 告罪状(時宜ニ)口供、罪人口供、告訴
人及ヒ証拠人ノ誓約昏及ヒ身元請人ノ誓約
書ハ必ス適宜ノ時間ニ審判ヲ為ス可キ裁判

廳ニ之ヲ送ル可シ

定例裁判ノ事

第三百八条 裁判上廳ノ判司及ヒ官吏陪審ノ
列席ニテ為ス可キ審判及ヒ其審判前後ノ手
続ハ英國ニ於ケル刑事処分ノ手續ニ準ス可
シ

陪審及ヒ副座ノ列席ニテ為ス可キ刑事ノ審
判及ヒ其審判前後ノ手續モ亦同一タル可シ
第三百九条 陪審列席ノ有無ニ関セス裁判上
廳ノ判司及ヒ判司補ノ定例ヲ以テ審判ス可
キ刑事ニ付テハ先ツ其日結セシ口供ヲ國王
ニ代リ告訴人トナル可キ法律并事(換事)ニ附
シ其并事ハ自身或ハ已レノ手書ヲ以テ任シ

タル代理人ヲシテ犯罪ヲ訴ヘ或ハ之ヲ審判
 ニ附スル為メ適宜ノ手續ヲ為サシム且訟廷
 ニ於テ審判ノ時之ヲシテ其訴人タラシム可
 シ但シ此場合ニ於テハ適當ノ告訴人之レニ
 関与スルコトヲ得ス
 然レモ通常ノ告訴人ハ英國代官人仲間ノ一
 人或ハ正當適宜ノ外國代官人ヲ已レノ補助
 ノ為メ雇入ルコトヲ得可シ但シ右代官人ハ國
 王代理ノ告訴人(曠事)ノ許ヲ得タル後ニ審判
 ノ席ニ出テ告訴人ノ職務ヲ行フ可ク若シ右
 法律并事或ハ其代理人ノ許ヲ得ス出席セシ
 時ハ其訴訟ヲ斥ク可シ

第三章 簡易法処置ノ事

第三百十條 此条目中ニ掲クル所ノ規則ハ簡
 易法裁判ノミニ係ルモノタルハ定例裁判ヲ
 以テ問糾裁断スル事件ニ之ヲ及ホス可カラ
 ス

問糾ノ事

第三百十一條 通常及ヒ延期ノ時ヲ論セス呼
 出状逮捕状及ヒ其他ノ方法ニ因リ犯人ノ出
 廷スルニ方リ其告訴人或ハ代官代理人其犯
 罪ノ問糾或ハ問糾延期ノ違書ヲ得テ其日ニ
 出席セサル時ハ其犯人ヲ放免ス可シ但シ裁
 判廳ニテ事情ニ因リ期限ノ長短ニ関セス問
 糾ヲ延期シ或ハ再延ヲ許スノ相当タルヲ思
 フ時ハ此限ニ非ス

第三百十二條 右延期ノ場合ニ於テ裁判廳ニ
テハ其犯人ニ入獄ヲ命ジ或ハ犯人ヲ入獄ニ
等シキ相当ノ警守ニ附シ或ハ裁判廳ノ見込
ヲ以テ保証人ノ有無ニ関セス犯人ヲテ延
期セシ日ニ必ス出庭ス可キ旨ヲ誓約セシメ
且ツ第四百十五ノ書式ニ準シタル証書ヲ出サ
レメ其犯人ヲ放免スルコトヲ得可シ
前ト同時ニテ第四百十六ノ書式ニ準シタル違
状ヲ誓約人ニ渡ス可シ
第三百十三條 然レモ原被本人或ハ代言代理
人ノ出庭セシ時ハ其犯状ヲ問糾シテ審決ス
可シ
第三百十四條 告訴人ハ罪状ヲ訴ヘ或ハ証據

人ノ吟味ヲ願ヒ或ハ自己ノ代言代理人ヲシ
テ對審セシムルヲ願フコト隨意タル可シ
第三百十五條 犯人ハ其訴訟ニ對シ充分ノ弁
駁ヲ為シ或ハ証人ノ吟味ヲ願ヒ或ハ自己ノ
代言代理人ヲシテ對審セシムルヲ願フコトヲ
得可シ然レモ其犯人代理人ヲ用ヒサル時ハ
原告人ノ出シタル各証人吟味ノ後其証人ニ
付キ異論アルヤ否ヤヲ裁判廳ヨリ其犯人ニ
問フ可シ
此場合ニ於テ犯人ノ証人ニ對シ異論ヲ述フ
ル時ハ其証人ノ再審ヲ為ス可シ
第三百十六條 犯罪ヲ裁聽スル為メ判司ノ出
席スル場所ハ公廳タルカ故ニ其場内へ容ル

、ヲ得可キ又ケハ常ニ衆庶ノ參聽ヲ許ス可
シ

第三百十七條 判司ハ犯罪ノ次第ヲ其犯人ニ
言ヒ聞セ其罪ニ服セシヤ否ヲ問フ可シ
此場合ニ於テ犯人ノ全ク罪ニ服セタル事由
アラサル時ハ裁判廳ニテ之ヲ罰ス可シ然レ
氏之レニ及ニ其罪ニ服セサル時ハ犯人ノ言
立テタル証拠ヲ以テ告訴人及ヒ証拠人ヲ問
糾ス可シ
犯人ノ訴訟ヲ弁駁スル為メ總テノ証拠ヲ出
タセシ後ニ裁判廳ニテハ第一席ヲ開キ至当
タルヲ思量スル時ハ犯人ニ答弁及ヒ証人ノ
有無又ハ更ニ訴訟ヲ弁駁スル為メノ他ノ証

拠アルヤ否ヲ問ヒ犯人其答弁等ヲ為ス可キ
旨ヲ答フル時ハ其犯人ノ証人証拠ヲ問糾ス
可シ

第三百十八條 犯人其弁駁ニ付キ証拠ヲ立テ
タル時ハ告訴人モ亦其証拠ヲ立ツ可シ然レ氏
告訴人ハ犯人ノ言立タル証拠ニ應ヒ漫ニ弁
論スルヲ許サス但ニ犯人モ亦之レニ同シ
第三百十九條 告訴ト言立テタル証拠トノ間
ニ差異アル時トモ法律上ニ定メタル時間
中ニ其犯罪ヲ訴出シタル時ハ敢テ之レニ関
セサル可シ
然レ氏其差異ノ全ク犯人ヲ騙欺スル為メニ
出テシテ裁判廳ニテ認ムル時ハ其問糾ヲ延

期ス可シ

裁判延期ノ事

第三百二十条 裁判廳ニテハ問糺前或ハ問糺
 中何時ヲ問ハス其意見ヲ以テ裁判手續昏中
 ニ登記セシ理由ニ原キ問糺ヲ延スルヲ得可
 シ
 事故アルカ为ノ延期ヲ命セシ時ハ原被双方
 或ハ代言代理人ノ面前ニテ言渡シタル其延
 期ノ当日ニ必ス開廳ス可シ但シ延期中ハ判司
 ノ意見ヲ以テ各訴訟ノ事實情状ニ從ヒ其
 犯人ニ他行ヲ許シ或ハ第四十四ノ書式ニ準
 シタル命令状ヲ以テ入獄ヲ命シ或ハ之ヲ他
 ノ安全ノ場所ニ護送シ又判司ノ相当タルヲ

思フ時ハ犯人ニ監獄ヲ命シ或ハ判司ノ意見
 ニ因リ証人ノ有無ニ関セズ延期ノ日ニ出會
 ス可キ証書^{四十五}ヲ出サシメ犯人ヲ放免ス
 ルヲ得可シ

前ト同時ニ第四十六ノ書式ニ準シタル違状
 ヲ誓約人ニ渡ス可シ
 問糺延期ノ日更ニ開廳スルニ方リ犯人自身
 或ハ其代言代理人ヲ出サシムル時ハ判司ノ意
 見ニ因リ犯人現在ノ振合ニ從ヒ一方ノ問糺
 ヲ以テ之ヲ処断ス可シ

裁決ノ事

第三百二十一条 前条ノ手續ヲ以テ原被双方ノ
 申立或ハ証人及ヒ其申立ヲタル証拠ノ問糺

セシ上ハ其訴ノ顛末ヲ細思裁断シテ或ハ犯人ヲ罰シ或ハ之ヲ赦宥ス可シ

處罰狀ノ事

第三百二十二條 犯人ノ罪ニ服マシ時ハ先ツ其罪案ヲ草シ然ル後第四十八ノ各式ニ準シタル處罰狀ヲ記シテ之ヲ裁判廳記録中ニ記シ置ク可シ

放免狀ノ事

第三百二十三條 裁判廳ニテ至当タルヲ思量シ犯人ヲ放免スル場合ニ於テハ第五十五ノ書式ニ準シタル放免狀及ヒ第五十六ノ各式ニ準シタル証昏ヲ添附ス可シ但シ其犯事ニ付キ其犯人ニ對シ後日再訴ヲ為ス者アル時

ハ他ノ証拠ヲ立テス右ノ証昏ヲ以テ之ヲ防
止ス可シ

費用ノ事

第三百二十四條 犯人ノ罪ニ服マシ時ハ裁判廳ニテ適宜至当ノ費用高ヲ定メ之ヲ其告訴人ニ償フ可キ旨ヲ其處罰言渡狀ノ中ニ記シ以テ其償ヲ其犯人ニ命ス可シ

第三百二十五條 放免スル場合ニ於テモ亦裁判廳ニテ適宜至当ノ費用高ヲ定メ之ヲ犯人ニ償フ可キ旨ヲ其放免狀中ニ記シ以テ其告訴人ニ其償ヲ命ス可シ

處罰狀及ヒ放免狀執行ノ事

第三百二十六條 處罰狀中金額ノ償還ヲ命セ

ス止、其犯人ニ入獄ヲ命セシ時ハ第五十ノ
式ニ準シタル繫獄狀ヲ出ス可シ

第三百二十七條 處罰狀及ヒ放免狀中服罪人
或ハ告訴人ヨリ償還セシム可キ贖金、賠償裁
判費用、雜費及ヒ其他ノ金額ハ第五十二、五十
七ノ書式ニ準シタル處分狀及ヒ命令狀ヲ出
シテ其所有ノ物品ヲ取押ヘ或ハ之ヲ公賣シ
テ償還セシム可シ

第三百二十八條 右命令狀ヲ執行シタル官吏
訴訟人所有ノ物品ヲ調査シ其物品ノ命令狀
中ニ記載セシ金額及ヒ裁判費用ニ充ツ可キ
金額ヲ償フニ足ラサル旨ノ復命狀第五十
三條式ヲ
出セシ時ハ第五十四、五十八ノ書式ニ準シタ

ル命令狀ヲ出シ其者ニ二ヶ月ニ過キサル繫
獄ヲ命ス可シ但シ繫獄中前文ニ記載シタル
償還金及ヒ諸費用及ヒ取押入費及ヒ繫獄費
護送費等ヲ速カニ償還スル時ハ此限ニ非ス
第三百二十九條 前條ノ場合ニ於テ償却ス可
キ命ヲ受ケタル者或ハ其親戚ノ其金額ヲ償
還シ得サルヲ或ハ本人或ハ他人ノ告白ニ依
リ其本人ノ取押ヲ可キ品物ヲ有セサルノ
判然タル時判司ノ至當タルヲ思フニ於テハ
取押狀ヲ出スニ換ヘ苦役ノ有無ヲ問ハスニ
ケ月ニ過キサル繫獄ヲ命ス可シ但シ前條ニ
記載シタル金額及ヒ裁判費用、繫獄費、護送費
等ヲ速カニ償還スル時ハ此限ニ非ス

第三百三十條 取押状ヲ受ケタル者ハ其状中ニ記載シタル金額ヲ直ニ其官吏ニ渡シ或ハ期限ヲ立テ其金額ト取押中ノ入費ト償還ス可キ申立ヲ為スヲ得可シ然ル時ハ其執行ヲ停止ス可シ

第三百三十一條 右ノ償還ヲ为ワ、ルカ为ノ繫獄ヲ命セラレシニ付キ其繫獄状ニ記載シタル金額及ヒ警守ヲ受ケシ人ノ償却ス可キ諸入費ヲ總テ償還セシ時ハ其者ヲ放免ス可但シ其者警守中ニアラサル時ハ警守ノ費用ヲ償還スルニ及ハス

第十四節 刑事控訴ノ事

第三百三十二條 簡易法ヲ以テ處刑セラレシ事件ニ付キ控訴ヲ願フ時ハ其処刑ノ言渡ヲ受ケシ日ヨリ四十八時間ニ之ヲ為ス可シ

第三百三十三條 控訴願ハ其控訴人ノ得タル処罰状ノ法律ニ適セサルヲ思惟スル旨趣ヲ簡畧ニ記シ且ツ其事件ノ始末書ヲ出ス可シ但シ右始末書ヲ出スニハ其日限ヲ願ヒ出ツ可シ

第三百三十四條 控訴ノ願ヲ許シタル時ハ其願ヲ為シタル後十日以内即チ始末書ヲ出ス日限ノ過キニ後ニ控訴ヲ為ス可シ

第三百三十五條 控訴ヲ為スニハ其控訴人ノ願書ノ写及ヒ控訴ノ为メ其者ヨリ出シタル

始未書ノ寫ヲ添フ可シ

第三百三十六條 控訴人ハ裁判廳ヨリ命シタル日ニ遅延ナク出庭シ其上廳ノ判決ニ服セシ時出ス可キ定リシ諸入費ヲ償フ可キ保証ノ為メ裁判廳ニテ足レリトスル証書抵当物及ヒ其他ノ物ヲ出ス可シ

第三百三十七條 前条ノ場合ニ於テ控訴人誓守中ニアル時ハ裁判廳ヨリ命シタル日ニ出庭シ其判決ニ服セシ時出ス可キ保証ノ証書抵当物及ヒ其他ノ物ヲ出スニ及ハス但シ上廳ニテ其処罰状ヲ取消ス時ハ此限ニ非ス

第三百三十八條 告訴人刑事ノ控訴ニ付キ裁判上廳ニ出シタル控訴案及ヒ其他ノ書類ノ

寫ヲ得ルニハ相当ノ手数料ヲ納ム可シ

第十五節

民事及ヒ刑事ノ概則

第三百二十九條 此法令中ニ掲載セサル事件

ハ總テ在英國諸裁判廳及ヒ治安裁判廳ノ規則ニ照準シテ処分ス可ク又海上或ハ特別裁判ノ事件ニ付テハ其事務ヲ擔当スル在英國諸廳ノ規則ニ照準シテ之ヲ処分ス可シ

第三百四十條 裁判廳ヨリ出ス所ノ達状呼出状逮捕状裁決書及ヒ其他ノ令状ハ總テ裁判廳ノ印ヲ鈐シ之ヲ封ス可シ

第三百四十一條 此規則中ニ「誓約ス」及ヒ「誓約ス」ヲ印シ及ヒ其關係ノ文字即チ「スウキリン

カトアルハ 約諾^{アライヤク}及ヒ 告白^{アケレ}并ニ 約諾^{アライヤク}及ヒ 告白^{アケレ}
ヲ 為ス可キノ 意味ヲ 含リ 故ニ アフファイル
ノ 一ニ ヨン^レ及ヒ テク^レラレ^レニ ヨン^レハ 時トシ
テ 誓約^{アライヤク}及ヒ ア誓^{アライヤク}イ 約^{アライヤク}ヒ ヲ トノ 代リニ 用フル
コトアリ

此規則ハ 即チ 取締ノ 法令ニ 拠リ 編制セシモ
ノ タレハ 此条中ニ 記スル 文字ハ 概畧取締法
令中ノ 字意ト 異ナルコトナシ

第三百四十二条 此規則ニ 附スル 所ノ 書式ハ
事ノ 模様ニ 従ヒ 之ヲ 変換スルコトヲ 得可シ

第三百四十三条 此規則ニ 附スル 目錄中ニ 記
載シタル 手数料ハ 必ス 之ヲ 納ム可シ 但シ 右
手数料ハ 判司ノ 見込ヲ 以テ 金額若シクハ 其

幾分カラ 拂ヤシムルコトヲ 得可シ

第三百四十四条 此規則ハ 取締ノ 法令制定ノ
時 其 趣意ニ 原キ 制定セシモ ノ タレハ 即チ 取
締ノ 法令ト 併セテ 之ヲ 施行ス可シ

書式、部

(第一) 定則ニ於テサル 争論裁決ノ書式

甲何某ト乙何某ノ間ニ起リタル 争論

右(平民)甲何某ト(商人)乙何某ノ間ニ起リシ 争論ヲ当裁判廳ニ於テ訴状及ヒ弁駁書ナク之ヲ裁決ス可シ

故ニ今左ノ争論ヲ審裁シ甲ハ契約ヲ固守スル者トシ乙ハ違約スル者トス

第一 争論ノ事件何々

第二 何々

於(何地)英國裁判廳千八百何年何月日

裁判廳印

(第二) 百弗以下ノ訴訟ニ付キ簡易法処置ノ
呼出状ノ書式

原告人何某ト被告何某ノ間ニ起リタリ
訴訟(或ハ幼者何某ノ事件)

被告人 何某

右者原告人何某ヨリ何々ノ原因ニ付キ金額
幾許償還或ハ(時宜ニ因リ何々ノ願)ノ訴訟或
ハ(願)ヲ糾問ス可キ為メ何月何日午前幾時何
地裁判廳ニ出席ス可ク因テ英國女王陛下ニ
代リ之ヲ命スルモノナリ

於(何地)英國裁判廳千八百何年何月日

裁判廳印

呼出状ノ原書ニハ左ノ例文ヲ添加ス可ク
且ツ時日ノ更改ヲ要スル時モ亦左ノ如ク
裏書ス可シ

右本人或ハ其代言人表唇ノ時日及ヒ場所或
ハ裏唇ノ時日及ヒ場所ニ出席セサル時ハ当
裁判廳ニテ適宜至当ノ命令及ヒ処分ヲ為ス
可シ

(第三) 簡易法ノ遺物処分ニ付遺物処分人或

ハ受托人呼出状ノ書式

原告人何某ト被告何某トノ間ニ起リタ
ル死者何某ノ遺産一件

死者何某受托人
被告人 何某

右死者何某ノ債主原告人何某ヨリ出訴セシ
事件ニ付キ何月何日午後何時何地裁判廳ニ
出席シ如何ナル事由ニ因リ遺物処分ニ付キ
当裁判廳ノ命令ヲ請ハサリシヤ其所以ヲ弁
明ス可シ因テ英國女王陛下ニ代リ之ヲ命ス
ルモノナリ

於(何地)英國裁判廳千八百何年何月日

裁判廳印

呼出状ノ原旨ニハ左ノ例文ヲ添付ス可ク
且ツ時日ノ更改ヲ要スル時モ亦左ノ如ク
裏付ス可シ

右本人或ハ其代言人表旨ノ時日及ヒ場所(或
ハ裏付ノ時日及ヒ場所)ニ出席セサル時ハ裁
判廳ニテ適宜至当ノ命令及ヒ処分ヲ為ス可
シ

(第四) 為替手形及ヒ約定証券ニ付キ特別呼
出状ノ書式

原告人何某ト被告人何某ノ間ニ起リタル
訴訟

被告人 何某

右被告人何某ハ此呼出状ヲ送達シタル日ヨ
リ七日内ニ当裁判廳ニ出席シ此訴訟ニ答弁
ス可キ免許ヲ得可シ然ラサレハ原告人何某

ハ汝ニ對シ直チニ至当ノ処決ヲ為ス可キ權
アリ因テ英國女王陛下ニ代リ之ヲ命スルモ
ノナリ

於(何地)英國裁判廳千八百何年何月日

裁判廳印

右呼出狀裏唇ノ式

原告人何某ハ為替手形及ヒ約定証券ノ請取
人或ハ(裏書人)タルヲ以テ元利若干或ハ(元利
殘金若干)ヲ受取ル可キヲ要ム即チ右手形及
ヒ証券ノ字ハ左ノ如シ

(此處ニ手形及ヒ証券或ハ其裏書ノ字ヲ記
ス可シ

但シ此令狀ヲ送達シタル後何日間ニ原告人

何某ニ之ヲ償還スル時ハ此他ノ処分ハ之ヲ
停止ス可シ

右ニ付キ公達ノ式

此呼出狀ヲ被告人ニ送達シタル日ヨリ七日
内ニ當裁判廳ヨリ原告人ニ其訴訟ニ當弁ス
可キ言渡ヲ為サ、ル時ハ原告人ハ此七日以
後何時ヲ問ハス直チニ至当ノ処決ヲ為ス可
キ權ヲ有シ其討索スル所ノ金額及ヒ當裁判
廳ヨリ課シタル費用ヲ被告人ニ償ハシ、此
事件ニ付キ控訴ヲ許サ、ル可シ

此言渡ハ被告人ノ正理ヲ以テ訴訟ニ當弁シ
又ハ其訴訟ニ當弁ス可キ道理ヲ述ヘ又ハ裏
書ノ金額ヲ裁判廳ニ償フ可キ旨ヲ誓詞ヲ以

テ述ル時ハ被告人ノ願ニ因リ之ヲ為スヲ得可シ

(第五) 訴訟ノ書式

原告人何某ト被告人甲乙何某ノ間ニ起リタル訴訟

原告人何某ハ左ノ事件ヲ申立テタリ

第一(千八百何年何月何日被告人云々

第二(右翌日原告人ハ被告人ニ書面ヲ送達シ

タリ然ルニ左ノ如シ

第三何々

第四何々

之レニ因リ原告人ハ左ノ如ク討索セリ

第一(何々ノ方法ヲ以テ元利ノ金額ヲ償還ス

可シ云々

第二(一ヶ月内右金額ヲ原告人ニ償却ス可キ

旨ヲ被告人ニ命ス可キヲ云々

第三(原告人ハ事ノ模様ニ因リ更ニ其期限ヲ

猶豫ス可シ

右被告人ハ(商人)何某(平人)何某ナリ

原告人 何某

(原告人何某代言人)

何某

何地英國領事

同法省

何某閣下

〔第六〕 答弁書ノ書式

原告人何某ト被告人甲乙何某ノ間ニ起リタル訴訟

右被告人ノ一名タル甲何某ハ原告人何某ノ訴状ニ對シ左ノ如ク答弁セリ

第一何々

第二何々

第三何々

被告人 何某

(被告人甲何某代言人)

何某

〔第七〕

訴訟ノ事件ヲ問糺紙ニ登写ス可キ連状ノ書式

原告人 何某

被告人 何某

同 何某

此訴訟ヲ千八百何年何月何日(何曜日)問糺紙ニ登写ヨリ糺問紙ニ登写シ即チ其順序ニ從ヒ之ヲ問糺ス可キニ因リ當裁判廳ニ出席ス可シ但シ裁判事務ノ都合ニ因リ右問糺ヲ延期スルヲアリ其連状ハ別段之ヲ送達セサル可シ

且ツ汝等ハ左ノ命令ヲ遵奉ス可シ
當日若シ原告人自身或ハ其代理代言人欠席
セシ時ハ被告人ノ求メニ因リ此訴訟ヲ取消
シ當裁判廳ニテ課スル所ノ金額ヲ被告人ニ
償フ可シ然ル時ハ此訴訟ヲ更ニ問糺総目録
ニ登記シ原告人ハ之レカ為メ再ヒ其猶豫ヲ
為シ且ツ其費用ヲ生ス可シ
若シ又當日被告人自身或ハ其代理代言人欠
席セシ時ハ原告人ノ求メニ因リ其申立タル
証拠ヲ以テ欠席ノ裁判ヲ為シ當裁判廳ハ其
裁決ヲ執行ス可シ
若シ又原被一方ニテ問糺延期ヲ裁判廳ニ願
ヒ出テント欲スル時ハ先ツ其延期願ニ付キ

訴訟法

呼出ヲ請ヒ然ル後ニ其延期ノ願書ヲ成ル可
ク速カニ出ス可シ但シ証人ノ不在等ニ因リ
右願書ヲ出ス時ハ先ツ其初メニ一葉以上ノ
誓約昏ヲ以テ其事情ヲ証明ス可シ
若シ又原被一方ニテ其双方間ニ生セシ争論
ノ分明ナラサル時又ハ并論ノ上其局ヲ了ス
ル能ハサル時又ハ其争論ノ曖昧ナル時又ハ
其争論ノ為メ害ヲ被ル可キヲ思考スル時ハ
其結局ノ處置ヲ請フ可キ為メ他ノ一方ヲ裁
判廳ニ呼出スルヲ得可シ但シ右ノ願ハ其思
考シタル時遅滞ナク之ヲ為ス可シ
問糺ノ時ハ諸証拠書類或ハ口述ノ証拠ヲ出
シ原告人或ハ被告人ノ用ニ供ス可シ但シ右

訴訟法

証状類ハ問糺ノ時ニ限リ之ヲ用フ可シ
若シ適宜ノ時間ニ右ノ証状ヲ立ルヲ怠ル者
ハ其書類ヲ出スニ付キ必ス障碍アルモノト
看做シ他ノ一方ニ償フ可キ金額及ヒ裁判廳
ニテ課ス可キ相当ノ費用ヲ償ハシム可シ
証人ノ出席ヲ要ムル者ハ其證人ニ呼出状ヲ
出シ之レヲ呼出ス可キヲ裁判廳ニ願ヒ出可
シ
以場合ニ於テハ右証人ニ相当ノ達状ヲ送達
スル為メ必ス其猶豫ヲ請フ可シ
右証人ニ簿冊或ハ書面ヲ裁判廳ニ持參セシ
メント欲スル時ハ証人ノ判然了解ス可キ様
其旨ヲ呼出状中ニ記載ス可シ

裁判廳ヲ經テ証人ヲ呼出セシ者ハ右証人ニ
其費用及ヒ時間ヲ費サシメシ償ノ為メ裁判
廳ニテ簡易ニ定メシ相当ノ金額ヲ拂フ可シ
右ノ金額ハ預メ之ヲ裁判廳ニ出サ、レハ其
証人ニ出席ヲ命セラル可シ
若シ原被ノ一方問糺ノ時他ノ一方ノ所有セ
シ簿冊書面及ヒ其他ノ書類ヲ証状ニ供セン
ト欲スル時ハ其問糺ノ時之レヲ出サ、レハ
再ヒ右各書類ヲ以テ証状ト為サ、ルニ因リ必
ス之ヲ出ス可キ旨ヲ記セシ相当ノ達状ヲ他
ノ一方ニ送ル可シ
証状ハ何人ヲ問ハス其關係アル者之ヲ弁明
ス可シ但シ原被ノ關係者其婦妻親族社中或

ハ其僕婢等ハ充分ノ証人ナリトス

在何地英國裁判廳印

(第八) 歎願書ノ書式

於何地英國裁判廳原告人何某ト被告人何某ノ間ニ起リタル事件

原告人(或ハ場合ニ因リ何々)ハ何々ノ趣(此処ニ歎願ノ意ヲ記ス可シ)ヲ歎願セリ

(第九) 千八百三十七年十二月三十一日以後ニ執行ヲタル遺囑昏或ハ遺囑添昏ヲ

証人ノ証明スル誓約書ノ書式

死者何某ノ事件

私儀ハ死者何某ノ遺囑書或ハ(場合ニ因リ遺囑添書)中ニ僉名セシ証人ノ一頁ニ付キ今以書ニ添ヘタル(日附何々)ノ遺囑書(或ハ遺囑添書)ハ私及シ証人何某ノ面前ニテ其当日ニ遺囑者之ヲ作り其紙尾或ハ(証言ヲ記シタルケ)茶ニ自己ノ姓名ヲ手署シ且ツ我等兩人モ亦同時ニ右遺囑者ノ面前ニ於テ以遺囑昏(或ハ遺囑添昏)ニ署名セリ故ニ我等誓約ヲ以テ其真正ナルヲ保証スルモノナリ

於何地英國裁判廳千八百何年何月何日何

カノ目前ニ於テ之ヲ誓約セリ

何某

第十 受托人誓詞ノ書式

死者何某ノ事件

死者何某ノ親族私何某ハ死者何某ノ作りタル遺囑昏ハ(或ハ何々ノ添書アル遺囑昏ハ)其原文ニシテ之レニ添付シタル此昏面(或ハ昏類ハ私ノ記シタル真正ノ遺囑書類タルヲ信シ且ツ私ハ右遺囑昏中ニ記シタル受托人(或ハ受托人中ノ一人或ハ昏類ヲ保証ス可キ受托人或ハ生存中ノ受托人或ハ死者ノ鰥寡中ノ遺托ヲ受ケタル婦女或ハ其他ノ者)ナリ

故ニ死者ノ負債ヲ償ヒ或ハ其遺囑昏(或ハ遺囑添昏)ニ照シ遺物ヲ分派ス可キ為ノ死者ノ財産ヲ収集シ或ハ法律ニ原キ之ヲ確實ニ管理ス可シ但シ其財産目録及ヒ遺物分配目録ヲ作り何時ヲ問ハス裁判廳ノ需要ニ供ス可シ
又右遺囑者ハ千八百何年何月何日何時当裁判廳ノ所轄内何地自宅ニ於テ死去シ其財産ノ價ハ金額幾許ヨリ多カラス因テ拙者ハ自認告知及ヒ信疑ノ為メ誓詞ヲ以テ右数件ヲ証ス

於何地裁判廳千八百何年何月何日何々ノ目前ニ於テ之ヲ誓約ス

(第十一) 遺囑アル遺物処分人誓詞各人書式

死者何某ノ事件

死者何某ノ親族タル私何某ハ死者何某ノ作
 リタル遺囑書ハ(或ハ遺囑添昏ハ)其原文ニシ
 テ之レニ添ヘタル書付(或ハ書類)ハ私ノ記シ
 タル遺囑書類タルヲ信シ且ツ右遺囑書中ニ
 記シタル受托人(何々ノ事情ニ因リ)遺囑証書
 ヲ得ス死去シ而シテ私モ亦其遺囑昏中ニ記シ
 タル遺物受托人ノ一人(或ハ遺囑証人ノ親族
 ナレハ其趣ヲ記ス可シ)タルヲ以テ死者ノ負

債ヲ償還シ或ハ遺囑書(或ハ遺囑添書ニ照シ
 遺物ヲ分派ス可キ)為ノ其財産ヲ収集シテ法
 律ニ原キ之ヲ確實ニ管理シ或ハ法律ニ原キ
 財産ノ残余ヲ分派ス可シ但シ其遺物目録及
 遺物分配目録ヲ作り何時ヲ向ハス裁判廳
 ノ需要ニ供ス可シ

又右遺囑者ハ千八百何年何月何日何時當裁
 判廳ノ所轄内何地ノ自宅ニ於テ死去シ其財
 産ノ價ハ金額幾許ヨリ多カラス因テ拙者ハ
 自認告知及ヒ信憑ノ為メ誓詞ヲ以テ右事件
 ヲ証ス

於何地英國裁判廳千八百何年何月何日何
 カノ目前ニ於テ之ヲ誓約ス

(第十二) 遺囑ナキ遺物處分人誓詞書ノ書式

死者何某ノ事件

兩者、兄弟、姉妹、叔伯、父母、甥姪等ノ親族ナキ孤身ノ死者何某遺囑ヲ為サス死去セシニ因リ其從兄弟或ハ血屬ノ親中ノ一人〔之レハ時宜ニ因リ異同アル可シ〕タル私何某右死者何某ノ負債ヲ償還シ或ハ法律ニ原キ其財產ノ残余ヲ分派ス可キ為メ其產財ヲ確實ニ管理ス可シ

分目錄ヲ作り何

時ヲ問ハス裁判廳ノ需要ニ供ス可シ

又右死者ハ千八百何年何月何日何時當裁判廳ノ所轄内何地ノ自宅ニ於テ死去シ其財產ノ價ハ金額幾許ヨリ多カラス因テ拙者ノ自認告知及ヒ信憑ノ為メ誓詞ヲ以テ証ス於何地英國裁判廳千八百何年何月何日何々ノ目前ニ於テ之ヲ誓約ス

何某

(第十三) 遺囑証各ノ書式

千八百何年何月何日ニ作りタル遺囑書〔或ハ遺囑添書或ハ之ニ添附シタル書付〕ハ即千八百何年何月何日當裁判廳ノ所轄内何地ノ自

宅ニ於テ死去シタル死者何某ノ作リシモノ
ナルヲ当裁判廳ニ於テ認メシニ因リ之ヲ証
明シテ本廳ノ簿冊ニ登録シ誓約ノ上右遺囑
昏中ニ記シタル受托人(或ハ他ノ者)タル何某
ニ右死者ノ財産ノ処分ヲ為ス可キヲ准許セ
シテ在何地英國裁判廳ニ於テ認定ス

何地英國領事

何某

裁判廳印

(第十四) 遺囑昏ヲ添ヘタル遺物処分免状ノ
書式

千八百何年何月何日当裁判廳ノ所轄内何地
ノ自宅ニ於テ死去シタル死者何某ノ作リタ
ル遺囑昏(或ハ添書アル遺囑書)及ヒ(何々ノ事
實ニ原キ)右昏中ニ記載シタル姓名ハ其正当
ナルヲ当裁判廳ニ於テ認メシニ因リ千八百
何年何月何日右遺囑昏(或ハ遺囑添昏)ヲ添ヘ
タル遺物処分免状ヲ何々ノ次第(其処ニ何々
ノ次第ニ因リ免状ヲ与フ可シト記ス可シ)ニ
因リ誓約ノ上何某ニ許可セシテ在何地当英
國裁判廳ニ於テ認定ス

何地英國領事

何某

裁判廳ノ印

(第十五) (遺囑各ヲ添ヘサル) 遺物処分免状ノ
書式

千八百何年何月何日当裁判廳ノ所轄内何地
ノ自宅ニ於テ遺囑ナク死去シタル死者何某
ノ所有セシ遺産ノ処分免状ハ千八百何年何
月何日当裁判廳ニテ誓約ノ上右死者ノ寡婦
(或ハ其他)何某ノ親戚タル何某ニ授与セシヲ
在何地当英國裁判廳ニ於テ認定ス

何地英國領事

何某

裁判廳ノ印

(第十六) 事故ヲルカ為メ再ヒ与ノ可キ遺囑
證書ノ書式

千八百何年何月何日ニ作リタル遺囑各(或ハ
遺囑添書)ハ千八百何年何月何日当裁判廳ノ
所轄内何地ノ自宅ニ於テ死去シタル死者何
某ノ作リシモノナルヲ当裁判廳ニテ証明シ
之ヲ簿冊ニ登録シテ其遺物処分免状及ヒ之
ニ関セシ諸事ヲ誓約ノ上右遺囑各(或ハ遺囑
添書)中ニ記シタル受托人中ノ甲何某ニ許可
セシト虽氏其受托人中ノ乙何某ニ更ニ右免
状ヲ与ノ可キ景状ニ及ヒシ故ニ千八百何年

何月何日在何地英國裁判廳ニ於テ更ニ右死者ノ遺囑狀ヲ証明シ誓約ノ上右乙何某ニ遺物処分免狀ヲ授与セシヲ認定ス

何地英國領事

何某

〔裁判廳ノ印〕

〔第十七〕

遺物処分人ニ与テ可キ遺物処分免狀ノ書式

死者何某千八百何年何月何日当裁判廳ノ所轄内何地ノ自宅ニ於テ遺囑ナク死去セシ後

千八百何年何月何日当裁判廳ニ於テ遺物処分免狀ヲ何々タル〔以テ〕親屬又ハ他ノ事情ニヨリ遺物処分人トナリシ旨ヲモ裁判廳ノ記録中ニ記載セシ如ク之ヲ記入ス可シ何某ニ授与シ其後右何某ノ死者ノ遺産処分中千八百何年何月何日右処分人死去シ其遺物処分ヲ全ク了スル能ハサルニ因リ更ニ何年何月何日在何地英國裁判廳ニ於テ誓約ノ上残余ノ遺物処分免狀ヲ乙何某ニ授与セシヲ認定ス

何地英國領事

何某

〔裁判廳ノ印〕

第十八 遺物分配証書ノ書式

此証書中ニ 余名ノ我等何人 甲何某何人 乙何某何人 丙何某一同通貨何弗ヲ以テ 日本支那ニ在ル英國裁判上廳ノ判司丁何某ト我等一同及ヒ我等ノ遺物相続人受托人遺物分配人ト共ニ此証書ヲ以テ 固ク約定ヲ結ヘリ 因テ一千八百何年何月何日 此ニ我等ノ印章ヲ鉤スルモノナリ

甲何某花押
乙何某花押
丙何某花押

此約定ノ条件ハ左ノ如シ 右余名ノ甲何某ハ何年何月何日ニ(家産ノ分配ヲ為ス)ナク死去シタル戌ヘ何某ノ家産分配人タルニ 因リ(右分配ヲ為リ)ル)死者ノ有シタル家産ヲ調理シ其真正ナル目錄ヲ作ル可シ又(在何地)英國裁判上廳或ハ其他ノ裁判廳ヨリ何時ヲ問ハス法則ニ 因リ其目錄ヲ要スル時ハ必ス之ヲ出ス可シ又右家産并ニ其目錄ヲ作り之ヲ出シタル後右甲何某或ハ(其者ニ代リ)他人ノ管掌ス可キ死者ノ有セシ其他ノ家産ハ法則ニ照シ以テ正当ノ処分ヲ為ス可シ(之ヲ説明スレハ)右死者ノ負債ハ之ヲ償還シ且ツ其ル

餘ノ家産ハ遺囑ナキ死者ノ家産分配規則ト
題セシ議院ノ布告ニ照準シ之ヲ適宜ノ者ニ
配当ス可シ又其他法則ニ因リ要スル時ハ何
時ヲ問ハス更ニ右遺物分配ノ正当ナル簿冊
ヲ作ル可シ又其後ニ至リ若シ右死者ノ記シ
タル遺囑書アリテ其中ニ余名ノ受托人ヨリ
之ヲ出シ其証書ヲ要スル時ハ右某甲何某ニ交
付シタル遺物分配免状ヲ返却セシム可シ然
ル時ハ此約定ヲ取消ス可シト虽氏未タ之ヲ
行ハサル以内ハ充分此証書ノ効アル可シ
右ハ当裁判廳ニ於テ手記調印ノ上之ヲ出シ
タルモノナリ

裁判廳印

第十九 遺囑書ヲ有スル遺物分配人ノ証書
ノ各式

此証書中ニ余名ノ我等何人甲何某何人乙何
某何人丙何某一同通貨何弗ヲ以テ日本支那
ニ在ル英國裁判上廳ノ判司丁何某ト我等一
同及ヒ我等ノ遺物相続人受托人遺物分配人
ト共ニ此証書ヲ以テ固ク約定ヲ結ヘリ因テ
一千八百何年何月何日此ニ我等ノ印章ヲ鈐
スルモノナリ

甲何某花押
乙何某花押

丙何果花押

右約定ノ條目ハ九ノ如シ右余名ノ甲何果ハ
 何年何月何日ニ(家産ノ分配ヲ為スナク)死
 去シタル戌何果ノ遺物分配人ト为リ其遺囑
 昏ヲ有スルニ因リ(右分配ヲ为サ、ル)死者ノ
 家産ヲ調理シ其真正ナル目錄ノ作ル可シ又
 (在何地)英國裁判上廳或ハ其他ノ裁判廳ヨリ
 何時ヲ問ハス法則ニ因リ其目錄ヲ要スル時
 ハ之ヲ出ス可シ又右分配ヲ为サ、ル(家産共
 ニ其目錄昏ヲ作リ之ヲ出シタル後右甲何果
 或ハ其者ニ代リ)他人ノ管掌ス可キ死者ノ有
 セシ其他ノ家産ハ法則ニ照シ以テ正当ノ処

分ヲ為ス可シ(之ヲ説明スレハ)死者ノ負債ハ
 之ヲ償還シ且ツ右遺物ハ遺物分配状ニ添ヘ
 タル遺囑昏ノ如ク之ヲ配当シ示談ノ家産ハ
 法律上適當ナル者ニ之ヲ分配ス可シ又其他
 法則ニ因リ要スル時ハ何時ヲ問ハス右遺物
 分配ノ正当ナル簿冊ヲ作ル可シ然ル時ハ以
 約定ヲ取消ス可シト雖モ未タ之ヲ行ハサル
 以内ハ充分此証昏ノ効アル可シ
 右ハ当裁判廳ニ在テ手記調印ノ上之ヲ出シ
 タルモノナリ

裁判廳印

(第二十) 遺囑人若クハ遺囑ナキ死者ノ有シ

タル家産報告ノ書式

甲何某何年何月何日当裁判所管内何地ニ於
テ死去シ其家産ハ死去ノ後其遺囑昏ヲ有シ
タル遺物分配人(或ハ時ニ因リ其遺物分配人
ナル乙何某之ヲ管掌シ或ハ之ヲ識認セリ)因
テ以ニ誓約或ハ法式ノ保證ヲ以テ其家産ヲ
報告スル左ノ如シ

一右甲何某死去ノ時ニ当リ何々ノ所有シ或ハ
之ヲ所有ス可キ権理ヲ有セリ(或處ニ其家産
ノ物質共ニ其各代價ヲ記ス可シ)
一右掲載品ノ外甲何某ノ死去以来其者ノ所有
物ハ何品ヲ尙ハス敢テ之ヲ管掌セス又之ヲ

識認セス因テ以旨ヲ弁明スルモノナリ

乙何某

(在何地)英國裁判所

一千八百何年何月何日右乙何某我カ目前ニ
於テ右家産報告ノ真正ナルヲ誓約シ或ハ法
式ノ保證ヲ為シタルモノナリ

誓約掛

何某

第二十二 証人タル証書ノ書式

死去人甲何某ノ事件

吾等何人乙何某何人丙何某一同死去甲何某

ノ所有セシ家産ノ分配人タル丁何某ノ証人
ハ為リ罰金何弗ヲ以テ家産分配ニ付テ右丁
何某ノ正当ナルヲ保証シ且ツ乙何某丙何某
各皆自己ノ負債ヲ償還スト虫モ更ニ通貨ヲ
所有スルニ因リ若シ誓約ニ違戾スルニ於テ
ハ各必ス右ノ罰金ヲ出ス可シ因テ我等一同
誓約ノ上以旨ヲ弁明スルモノナリ

乙何某

丙何某

〔在何地〕英國裁判所

一千八百何年何月何日我目前ニ於テ証人乙
何某丙何某一同右ノ趣ヲ誓約セシモノナリ
何某

〔第二十二〕

遺囑証書並ニ遺囑旨ヲ添ヘタル
遺物分配狀取消ノ各式

死者甲何某ノ事件

一 甲何某一千八百何年何月何日当裁判所管内
何地ニ於テ死去シ一千八百何年何月何日ニ
記シタル遺囑書ヲ以テ〔若シ添付ナル時ハ具
日付ヲ以テ記ス可シ〕乙何某ヲ受托人ト為シ
ニ遺物分配ノ事ヲ專任セリ〔或ハ其次第ヲ記
ス可シ〕

一 然レモ私乙何某右死者ノ所有セシ家産分配
ノ事ニ全ク関与セス且ツ尔後ト虽此事ニ

関シテ債主ヲ欺瞞スル等ノ所為ヲ行ハサル
ニ因リ判然右遺囑書〔添付〕ノ証各並ニ右遺囑
書〔添付〕ヲ添ヘタル家産分配状中ニ存スル推
理ヲ取消ス可シ因テ此旨ヲ弁明シ一千八百
何年何月何日此ニ自カラ印章ヲ鈐シテ証扱
ト為スモノナリ

乙何某花押

〔在何地〕英國裁判所

右我目前ニ於テ手記調印ノ上之ヲ出シタル
モノナリ

何某

〔第二十三〕 遺物分配状取消ノ書式

一 甲何某一千八百何年何月何日当裁判所管内
何地ニ於テ遺囑書ヲ記スルヲテク死去シタ
リ然ルニ私乙何某ハ其死者ノ嫡子ニシテ且
ツ血族ナリ〔或ハ其次弟ヲ記ス可シ〕
一 然レ氏私乙何某右死者ノ所有セシ家産分配
ノ事ニ全ク関与セサルニ因リ判然其遺物分
配状中ニ存スル推理ヲ取消ス可シ因テ此旨
ヲ弁明シ一千八百何年何月何日此ニ自ラ印
章ヲ鈐シテ証扱ト為スモノナリ

乙何某花押

〔在何地〕英國裁判所

右我目前ニ於テ手記調印ノ上之ヲ出セシモ

ノナリ

何某

〔第二十四〕

遺囑書ニ類似ノ書類ヲ差出ス可

キ旨ヲ命スル令状ノ書式

何人乙何某ハ

一 一千八百何年何月何日此裁判廳ハ何某ヨリ
誓旨ヲ出シ汝ハ現ニ一千八百何年何月何日
付ノ遺囑書或ハ遺囑書ニ類似ノ書類〔此ハ
其書類ヲ記ス可シ〕ヲ所有シ或ハ汝ノ所有中
ニ存スル旨ヲ証明セリ
一 故ニ汝ハ此令状送達ノ後其送達ノ当日ヲ除

キ八日內ニ右書類ヲ当裁判廳ニ持参シ之ヲ
出ス可シ然レモ汝若シ之ヲ所有セズ或ハ其
所有中ニ存セサル時ハ其旨ト右書類ニ関シ
汝ノ識認シタル事件トヲ誓旨ニ記シテ令状
送達ノ後其送達ノ当日ヲ除キ八日內ニ其誓
書ヲ当裁判廳ニ出ス可シ因テ此旨ヲ汝ニ命
スルモノナリ

一千八百何年何月何日

〔在何地〕英國裁判所印

〔第二十五〕

手署ヲ証スル誓旨ノ書式

死者乙何某ノ事件

私何人甲何某何年何月何日ニ死去シタル乙
何某トハ數年間ノ知己ニシテ能ク其為人ヲ
知ルカ故ニ交際中屢々其者ノ手署及ヒ印章
ヲ見知識認スルヲ得タリ故ニ右乙何某ノ記
シタル遺囑昏タルヲ思想スル書類ヲ現ニ閱
熟シ其書中最初ニ何々終尾ニ何々何年何月
何日乙何某手署ト記シタル其顛末ノ疑ヲ容
レサル死者ノ手署印章ナルヲ信認セリ因
テ誓約ノ上真者ヲ弁明スルモノナリ

甲何某

〔在何地〕英國裁判所

右ハ一千八百何年何月何日我目前ニ於テ右
ノ趣ヲ誓約セシモノナリ

何某

〔第二十六〕 遺囑書ノ祭頭并ニ其次第ヲ証ス
ル誓書ノ書式

死者丙何某ノ事件

私何人甲何某独リ死者丙何某ノ記シタル遺
囑昏中ニ僉名ノ受托人ナリ其者ハ何年何月
何日当裁判所管内何地ニ於テ死去セリ其遺
囑書ニハ何年何月何日付ヲ以テ最初ニ何々
終尾ニ何々丙何某手署ト記シタリ〔其處ニ遺
囑昏祭頭ノ次第ヲ記シ若シ書中ニ塗抹削除
欄外ノ記入及ヒ其他異様ノ事アル時ハ其旨

ヲ記シ然ル後ニ書中ニ記シタル総テノ事件
及ヒ并明ス可キ其他ノ事件ヲ記シ以テ死者
ノ生存中ヨリ此誓書ヲ記セシ日ニ至ル迄ノ
家産ノ景状ヲ明瞭ニ表出ス可シ但シ其遺囑
昏ハ現ニ之ヲ發頭セシ時ト同様取テ異変ヲ
生セス或ハ其次第ヲ記ス可シ因テ誓約ノ上
其旨ヲ并明スルモノナリ

甲何某

〔在何地〕英國裁判所

右ハ一千八百何年何月何日我目前ニ於テ右
ノ趣ヲ誓約セシモノナリ

何某

〔第二十七〕

搜索誓書ノ書式

此行式ハ遺囑
昏執行ノ時ニ

河 当 証 明 記 名 能 証 人 或 時 其 他 之 用 者 日

死者乙何某ノ事件

私何人甲何某独リ死者乙何某ノ記シタル遺
囑書中ニ僉名ノ受托人ナリ其者ハ一千八百
何年何月何日当裁判所管内何地ニ於テ死去
セリ其遺囑書ニハ最初ニ何々終尾ニ至リ紀
元一千八百五十四年或ハ何年 該日
自ラ之ヲ手署シ以テ此証拠ト為ス乙何某手
記トアリ然レモ其遺囑書中月日ヲ記ス可キ
地ヲ故ラニ空白ニ為シタル或ハ其遺囑昏ニ

日付ヲ記セス或ハ何々ノ次第ニ因リ其旨ヲ
右死者ノ代理丙何某尋伺シ又其他ノ遺囑
書アルヤ否ヤヲ証明スル為メ右死者ノ平常
緊要ノ書類ヲ藏貯セシ場所ヲ悉ク搜索セシ
ト虽モ曾テ其他ノ遺囑書ヲ發見シ能ハス故
ニ右死者ノ生存中右ニ記載シタル遺囑旨ノ
外更ニ其他ノ遺囑書添書或ハ遺囑ノ昏類等
ヲ記スルヲナク死去セシ者ト信認セリ因テ
誓約ノ上此旨ヲ弁明スルモノナリ

甲何某

〔在何地〕英國裁判所

右ハ一千八百何年何月何日我目前ニ於テ右
ノ趣ヲ誓約セシモノナリ

何某

第二十八

遺囑証書或ハ遺物分配狀ノ准許
ヲ中止ス可キ報知狀ノ書式

死者甲何某ノ事件

何年何月何日当裁判所管内何地ニ於テ死去
シタル甲何某ノ事件ニ於テハ豫メ何人乙何
某或ハ何人丁何某ノ代言人タル何人丙何某
ニ告示スルニ非カレハ何事ト虽モ之ヲ行フ
可カラサルヲ乞フ

一千八百何年何月何日 何人乙何某或ハ
何人丁何某ノ代

〔在何地〕英國裁判所

言人タル何人丙
何某〔手記

〔第二十九〕

准許ヲ中止ス可キ報知状ヲ出シ
タル者ニ送達スル告示状ノ書式

死者甲何某ノ事件

何人乙何某〔或ハ
何人丁何某ノ代
言人タル何人丙
何某〕ハ

汝ニ此告示状ヲ送達セシ後汝ノ具送答ノ当

日ヲ除キ八日內ニ當裁判所ニ出席ノ上此事
件ニ付キ汝〔或ハ汝ノ代言人〕ノ関涉セシ旨ヲ
記シタル誓旨ヲ出ス可シ若シ汝之ヲ遵奉セ
サル時ハ當裁判廳ニ於テ此事件ノ緊要ナル
処分ヲ為ス可シ因テ豫メ以旨ヲ汝ニ告示ス
ルモノナリ

但シ何人何某ノ為メ之ヲ出セリ〔或ハ是ニ具
者ノ関涉セシ旨ヲ記シ若シ其関涉セシ事
ノ遺囑書或ハ添書中ニ係ル時ハ其日付ヲ
記ス可シ

〔在何地〕英國裁判所印

〔第三十〕

遺囑証旨并ニ遺物分配状目錄ノ書

式

一千八百六十六年七月一日迄以裁判廳ヨリ
准許ヲ為シタル遺言證書並ニ遺物分配状ノ
目錄

准許ヲ為シタル当日	死去人ノ姓名	死去人ノ男 若クハ女ノ家 業職業若クハ 他ノ記載	死去人ノ男 若クハ女ノ死 タル時	遺囑證書若 クハ遺物分配 状ヲ受取各 ノ記載	死去人ノ所 有タル家産 ノ代價

一千八百六十六年八月一日
〔在何地英國裁判所印〕
〔在何地英國女王陛下ノ領事

何果手記

第三十一 告罪状ノ書式

一〔職人〕乙何果ヨリ〔誓約ヲ以テ〕何々ノ罪状ヲ告
訴ス〔以テ〕罪状ヲ記ス可シ
一千八百何年何月何日〔土曜日〕

〔在何地〕英國裁判所印

第三十二 罪人呼出状ノ書式

〔職人〕甲何某へ

一 汝ハ以裁判廳ニ〔誓約ヲ以テ〕何々ノ罪状ヲ告
訴セラレタリ〔以テ〕告訴シタル罪状ヲ簡易
ニ記ス可シ

一 故ニ汝ハ汝ノ右罪状并明ノ上之ヲ法則ニ照
シ其処分ヲ受ク可キ為ノ何月何日〔次回ノ土
曜日午前第十時〕訟廷ニ出ツ可シ因テ以旨ヲ
汝ニ命スルモノナリ

一千八百何年何月何日〔土曜日〕

〔在何地英國裁判所印〕

第三十三 罪人ヲ捕縛ス可キ最初ノ逮捕状

ノ書式

以裁判廳ノ警察官吏
何某英ニ他ノ官吏へ

一 〔職人〕甲何某ハ以裁判廳ニ〔誓約ヲ以テ〕何々ノ
罪状ヲ告訴セラレタリ〔以テ〕告訴シタル罪
状ヲ簡易ニ記ス可シ

一 故ニ汝ハ右甲何某ヲ速カニ捕縛シ其者ヲ
右罪状ノ答弁ヲ為シ之ヲ法則ニ照シ
処分ス可キ為ノ某者ヲ訟廷ニ押引ス可シ因
テ以旨ヲ汝ニ命スルモノナリ

一千八百何年何月何日〔土曜日〕

〔在何地英國裁判所印〕

第三十四

呼出ノ期日ニ欠席セシニ因リ其
罪人ヲ捕縛ス可キ逮捕状ノ書式

此裁判廳ノ警察官吏
何某英ニ他ノ官吏ハ

一職人甲何某ハ一千八百何年何月何日此裁判
廳ニ誓約ヲ以テ何々ノ罪状ヲ告訴セラレタ
リ(此処ニ呼出状ニ記載シタル罪状ヲ記ス可
シ)

一右甲何某ヲシテ其罪状ノ答弁ヲ為サシメ之
ヲ法則ニ照シ処分ス可キ為メ此裁判廳ヨリ
呼出状ヲ發シ(何月何日第何時)其訟廷ニ出ツ
可キ旨ヲ命セリ)

一此裁判廳ニ於テハ右呼出状送達ノ分明ナル
ヲ認ムレバ右甲何某ハ其当日ニ出席セス

一故ニ汝ハ右甲何某ヲ速カニ捕縛シ其者ヲシ
テ罪状ノ答弁ヲ為サシメ之ヲ法則ニ照シ処
分ス可キ為メ其者ヲ訟廷ニ押引ス可シ因テ
此旨ヲ汝ニ命スルモノナリ

一千八百何年何月何日(土曜日)

(在何地)英國裁判所印

第三十五 證人呼出状ノ書式

職人丙何某ハ

一職人甲何某ハ此裁判廳ニ誓約ヲ以テ何々ノ

罪状ヲ告訴セラレタリ(以処ニ罪人ヘノ呼出状
 或ハ逮捕状ニ記載シタル罪状ヲ記ス可シ
 一以裁判廳ニ於テ汝ハ右罪状ニ関シタル証
 ヲ辨明ス可キヲ認ム
 一故ニ汝ハ右罪状ニ関シ汝ノ識認シタル事件
 ヲ証スル為メ一千八百何年何月何日(次回ノ
 土曜日午前第十時)迄ニ出ツ可シ因テ以旨
 ヲ命スルモノナリ
 一千八百何年何月何日(土曜日)

(在何地)英國裁判所印

第三十六 呼出ノ期日ニ欠席セシニ因リ証
 人ヲ押引ス可キ命令状ノ書式

以裁判廳ノ警察官吏
 何某ニ他ノ官吏ニ

一職人(甲何某ハ以裁判廳ニ何々ノ罪状ヲ告訴
 セラレタリ)以処ニ呼出状ニ記載シタル罪状
 ヲ記ス可シ
 一以裁判廳ニ於テ(職人)丙何某ハ右罪状ノ證據
 ヲ弁明ス可キヲ認ム因テ右罪状ニ関シ彼ノ
 識認シタル事件ヲ証セシムル為メ以裁判廳
 ヲヨリ呼出状ヲ發シ(何月何日第何時)其
 出ツ可キ旨ヲ右丙何某ニ命セリ
 一然ルニ右丙何某ハ以裁判廳ニ於テ呼出ノ
 日出席セス又其欠席セシヲ許可スルニ足ル

可キ理由ヲ弁明セス

一故ニ汝ハ右丙何某ヲシテ右罪状ニ関シ彼ノ識認シタル事件ヲ証セシムル為メ何年何月何日午前第十時其者ヲ訟廷ニ押引シテ其監護ヲ為ス可シ因テ此旨ヲ汝ニ命スルモノナリ

一千八百何年何月何日(土曜日)

(在何地)英國裁判所印

〔第三十七〕 証人ヲ監護ス可キ最初ノ命令状ノ書式

此裁判廳ノ警察官吏

何某并ニ他ノ官吏ハ

一(職人)甲何某ハ此裁判廳ニ何カノ罪状ヲ告訴セラレタリ(此処ニ呼出状ニ記載シタル罪状ヲ記ス可シ)

一此裁判廳ニ於テ(職人)丙何某ハ右罪状ニ関シタル証状ヲ弁明ス可キヲ認ム然レモ其証状ヲ弁明スル為メ出席ヲ強ユルニ非サレハ其者恐ラクハ出席セサル可シ

一故ニ汝ハ丙何某ヲシテ右罪状ニ関シ彼ノ識認シタル事件ヲ証セシムル為メ(一千八百何年何月何日次回ノ土曜日)其者ヲ訟廷ニ押引シテ其監護ヲ為ス可シ因テ此旨ヲ汝ニ命スルモノナリ

一千八百何年何月何日(土曜日)

(在何地)英国裁判所印

(第三十八) 誓約ヲ為シ或ハ証拠ヲ弁明スル

ヲ拒ミタルニ因リ証人ヲ拘禁ス
可キ逮捕状ノ書式

此裁判廳ノ警察官吏何某
並ニ在何地英吉利監獄吏へ

一(職人)甲何某ハ此裁判廳ニ何々ノ罪状ヲ告訴
マラレタリ(此処ニ呼出状ニ記載シタル罪状
ヲ記ス可シ)

一(職人)丙何某ハ此裁判廳ヨリ出シタル呼出状

(或ハ命令状)ニ因リ訟廷ニ出席ノ上右罪状ニ
関シ其識認シタル事件ヲ証スルニ當リ誓約
ヲ為スヲ拒ミ(或ハ誓約ノ上右罪状ニ関シタ
ル何れヲ弁明スルヲ拒ミ)此裁判廳ニ於テ其之
ヲ拒ムヲ許可スルニ足ル可キ理由ヲ弁明セ
ス

一故ニ右警察官吏何某ハ右丙何某ヲ捕縛ノ上
安全ニ之ヲ右ニ記載シタル監獄ニ護送シ以
逮捕状ト共ニ其者ヲ獄吏ニ交付ス可シ

一右監獄吏ハ丙何某ヲ受取リタル上之ヲ其監
獄ニ拘禁シ暫時ノ後其者誓約ヲ以テ答弁ス
可キヲ承諾スルニ非サレハ(七)日間其者ヲ安
全ニ監護ス可シ因テ此旨ヲ汝等ニ命スルモノ

一千八百何年何月何日(土曜日)

(在何地)英國裁判所印

〔第三十九〕 定例裁判ノ前下吟味ノ時証人口
供ノ書式

一〔職人〕甲何某ハ以裁判廳ニ何々ノ罪状ヲ告訴
セラレタリ(以処ニ呼出状ニ記載シタル罪状
ヲ記ス可シ)

一右甲何某出席ノ上問糾ノ時ニ当リ〔職人〕乙何
某共ニ〔職人〕丙何某ヨリ誓約ヲ以テ左ノ口供
ヲ為セリ

一第一右乙何某ハ何々ノ口供ヲ為セリ(以処ニ
其口供ヲ成可キ大ク發言ノ通りニ記シ口供
自結ノ後之レニ證人ノ印章ヲ鈐マシム可シ)
一第二右丙何某ハ何々ノ口供ヲ為セリ(以処ニ
前項ト同一ノ手續ヲ以テ其口供ヲ記ス可シ)
一千八百何年何月何日(土曜日)

(在何地)英國裁判所印

〔第四十〕 下吟味ノ時罪人口供ノ書式

一職人甲何某ハ以裁判廳ニ何々ノ罪状ヲ告訴
セラレタリ(以処ニ呼出状ニ記載シタル罪状
ヲ記ス可シ)

一 右甲何某ニ罪状ヲ告示レ其者ノ目前ニ於テ
告訴ノ証人タル乙何某ニ丙何某ヲ種々ニ
吟味シ又其口唇ヲ告示レタル上以裁判廳ヨ
リ其者ニ尤ノ弁述ヲ為ス可シ例ヘハ

一 右証人ヲ聽キタル上汝ハ右罪状ニ答弁スル
為メ何事カ自カラ辨明セント欲スル條件ア
リヤ汝若シ弁明ヲ欲セサル時ハ敢テ之ヲ要
セスト虽モ汝ノ弁明ヲ為シタル條件ハ何事
ヲ問ハス之ヲ記録シ汝ヲ吟味スル時ノ証人
ニ供ス可シ又汝ハ毫末モ自言ニ動カサレ
又汝ハ汝ヲシテ罪ニ服セシメ或ハ之ヲ自状
セシムル為メ行フタル脅壓ニ毫モ畏懼セサ
リシヤヲ審カニ省思ス可シ若シ然ラサレハ

今汝ノ辨明セシ事ハ甘言脅壓ノ如何ヲ論セ
ス汝ヲ吟味スル時ノ証人ニ供フ可シ

一 是ニ於テ右甲何某ハ何々ヲ辨明ス(以処ニ其
辨明ヲ成ス可キ尤ク發言ノ通りニ記シ若シ
其弁明ヲ為シ終リシ時ハ之ニ罪人ヲシテ
其姓名ヲ記セシム可シ)

一千八百何年何月何日(土曜日) (甲何某

(在何地)英國裁判所印

(第四十一) 罪状ヲ訴ヘ或ハ証人ヲ辨明ス可

キ証書ノ書式

一 職人乙何某自カラ以裁判廳ニ出席シ若シ左ニ記

載シタル裏書ノ趣ニ違戾スル時ハ其所有物
タル通貨(何弗)ヲ女王陛下ニ上納ス可シ因テ
此旨ヲ誓諾セリ

一千八百何年何月何日(土曜日) 乙何某手記

(在何地)英國裁判所印

裏書条件ノ各式

右証書中ニ裏書ヲ為スル者ノ如シ

一(職人)甲何某ハ此裁判廳ニ何々ノ罪状ヲ告訴
セラレタリ(此処ニ呼出状ニ記載シタル罪状
ヲ記ス可シ)

一故ニ右僉名ノ乙何某(何月何日)訟廷ニ出席ノ
上「右甲何某ノ犯シタル罪状ノ定例裁判ヲ請
ヒ其罪状ヲ訴ヘ(其証状ヲ弁明シ)タル上ハ「右

証書ヲ取消ス可シ然ラレハ充分ニ其効ヲ
有ス可シ

但シ唯証状ヲ辨明ス可キ證者ノ時ハ「
ノ間ニ記シタル文章ニ換ヘ
右甲何某ノ犯シタル罪状ノ定例裁判所廳ノ
時其証状ヲ辨明シタル上ハト記ス可シ

(第四十二) 訴訟人共ニ其証人ノ各個ニ交付
ス可キ証書違状ノ書式

(職人)乙何某ハ

一此ハ通貨(何弗)ヲ以テ何月何日証廷ニ出席ノ
上(職人)甲何某ノ犯シタル罪状ヲ訴ヘ其証状

ヲ辨明ス(或ハ其罪状ヲ訴ヘ或ハ其証状ヲ弁明ス可キ)トテ盟約セリ故ニ若シ之ヲ為サハル時ハ其ノ記シタル証書ヲ以テ速カニ其ノ品物ヲ徵收ス可シ

一千八百何年何月何日(土曜日)

(在何地)英國裁判所印

第四十三

證人ヲ記スルヲ拒ムニ因リ証人ヲ拘禁ス可キ命令状ノ書式

此裁判廳ノ警察官吏何某等(在何地)英國領事館ニ屬スル監獄吏ヘ

一(職人)甲何某ハ此裁判廳ニ何々ノ罪状ヲ告訴セラレタリ(此処ニ呼出状ニ記載シタル罪状ヲ記ス可シ)

一右罪状ニ関シ職人丙何某ヲ吟味セシト虽モ其証状ヲ辨明ス可キ証人ヲ記スルヲ拒メリ

一故ニ右警察官吏何某ハ右丙何某ヲ捕縛ノ上右ニ記載シタル監獄ニ安全ニ護送シ以テ命令

状ト共ニ具者ヲ獄吏ニ交付ス可シ

一右監獄吏ハ丙何某ヲ受取リタル上之ヲ其監獄ニ拘禁シ暫時ノ後具者ノ先キニ記載シタル証書ヲ記ス可キヲ承諾スルニ非サレハ右

甲何某ノ罪状吟味ノ後追其者ヲ安全ニ監護ス可シ因テ此旨ヲ汝等ニ命スルモノナリ

一千八百何年何月何日〔土曜日〕

〔在何地〕英國裁判所印

〔第四十四〕

罪人ヲ拘留スル時又ハ〔簡易法〕

ヲ問糾ノ延期中或ハ即時ニ其問

糾ヲ為シ能ハサル時之ヲ安全ナ

ル監獄ニ拘禁ス可キ命令状ノ書

式

此裁判廳ノ警察官吏

何某并ニ〔在何地〕英國

領事館ニ属スル監獄

吏へ

一〔職人〕甲何某ハ何々ノ罪状ヲ告訴セラレタリ

〔此処ニ呼出状ニ記載シタル罪状ヲ記ス可シ〕

一此裁判廳ニ於テ右甲何某ヲ拘留スルノ緊要

ナルヲ認メタリ

一故ニ右警察官吏何某ハ右甲何某ヲ右ニ記載

シタル監獄ニ護送シ此命令状ト共ニ其者ヲ

獄吏ニ交付ス可シ

又右監獄吏ハ甲何某ヲ受取リタル上之ヲ其

監獄ニ拘禁シテ〔本月何日〕迄其者ヲ監護シ然

ル後其者ニ罪状ノ答辨ヲ為サシメ之ヲ法則

ニ照シテ其処分ヲ為ス可キ為メ本月何日〔午

前第十時〕其者ヲ訟廷ニ押引ス可シ因テ此旨

ヲ汝等ニ命スルモノナリ

一千八百何年何月何日〔土曜日〕

但シ簡易法ニテハ
間ノ文章ヲ尤ノ如ク記ス可シ
〔在何地〕英國裁判所印

一右罪状ノ問糺ヲ延期スル(或ハ即時ニ其糺問ヲ為シ能ナル)ニ因リ暫時ノ間右甲何某ヲ安全ナル監獄ニ拘禁シ置ク可シ

〔第四十五〕 下吟味ノ延期ニ因リ又ハ吟味ノ

時出席ス可キ為メ又ハ簡易法ニテ問糺延期ノ時又ハ即時ニ糺問ヲ為シ能ナル時罪人ノ拘留ニ換ヘ身元請人ヨリ出ス可キ証昏ノ書式

一我等〔職人〕甲何某〔荒物商人〕丁何某并ニ〔屠牛商人〕戊何某自カラ訟廷ニ出席シ若シ右甲何某左ニ記載シタル裏脊ノ趣ニ違戾スル時ハ我等ノ所有スル教種ノ品物ヲ以テ甲何某ヨリ何弗丁何某ヨリ何弗戊何某ヨリ何弗ヲ女王陛下ニ上納ス可シ因テ我輩一同共旨ヲ誓詰セリ

一千八百何年何月何日〔土曜日〕
甲何某
丁何某
戊何某

〔在何地〕英國裁判所印

裏書條件ノ書式

右証書中裏書ヲ為ス。左ノ如シ
一 右甲何某ハ以裁判廳ニ何々ノ罪状ヲ告訴セ
ラレタリ。以処ニ呼出状ニ記載シタル罪状ヲ
記ス可シ。

一 故ニ右甲何某何月何日第何時訟廷ニ出席ノ
上右罪状ノ答弁ヲ為シ之ヲ法則ニ照シテ(更
ニ其処分ヲ受ゲタル上ハ右証書ヲ取消ス可
シ然ラサレハ充分ニ其効ヲ有ス可シ
但シ吟味ノ時出席ス可キ証各ニハ
間ニ記シタル文章ニ換ヘ

一 何月何日第何時訟廷ニ出席ノ上自カラ何々
ニ属スル監獄吏ノ監護ヲ受ケ右罪状ノ定例
裁判ヲ請フテ其吟味ノ席ニ出席シ裁判廳ノ

准許ヲ得ルニ非サレハ敢テ其席ヲ退カス若
シ之ヲ為シタル時ハト記ス可シ

〔第四十六〕 罪人并ニ其証人ノ各個ニ交付ス
可キ証書達状ノ書式

〔職人〕甲何某〔荒物商人〕丁
何某并ニ〔屠牛商人〕戊
何某ハ

一 汝等甲何某ヨリ通貨何帛ヲ以テ丙何某ヨリ
告訴シタル罪状ノ答弁ヲ為シ之ヲ法則ニ照
シ(更ニ其処分ヲ受ク可キ為メ右甲何某何月
何日第何時訟廷ニ出席ス可キヲ誓約セリ故
ニ丁何某戊何某ノ記シタル証書ヲ以テ汝等

ノ所有物ヲ徴収ス可シ

一千八百何年何月何日〔土曜日〕

〔在何地〕英國裁判所印

但シ、
間ノ文章ハ吟味ノ時出席ス可キ
証書ニモ亦之ヲ記ス可シ

〔第四十七〕 吟味ノ為ノ罪人ヲ拘禁ス可キ命

令状ノ書式

此裁判廳ノ警察官吏

何某并ニ〔在何地英國

領事館ニ属スル〕監獄

吏ハ

一 甲何某ハ〔職人〕乙何某ヨリ誓約ヲ以テ此裁判

廳ニ何々ノ罪状ヲ告訴セラレタリ〔此処ニ呼

出状ニ記載シタル罪状ヲ記ス可シ〕

一 故ニ汝ハ右甲何某ヲ右ニ記載シタル監獄ニ

護送シ此命令状ト共ニ其者ヲ獄吏ニ交付ス

可シ

又右監獄吏ハ其者ヲ受取リタル上之ヲ監獄

ニ拘禁シ法則ヲ以テ他ニ移送スル迄其者ヲ

安全ニ監護ス可シ因テ此旨ヲ汝等ニ命スル

モノナリ

一千八百何年何月何日〔土曜日〕

〔在何地〕英國裁判所印

第四十八 賅罪金ヲ命スルノナク拘禁ヲ命スル簡易法罰状ノ書式

〔職人〕甲何某ニ本日訟廷ニ出ラ何々ノ罪状ノ罰ヲ申渡ス〔此処ニ其罪状及ヒ拘禁ス可キ場所并ニ時間ヲ記ス可シ〕

一 此裁判廳ニ於テ右罪状ヲ以テ甲何某ニ〔在何地英國領事館ニ属スル〕監獄ニ拘禁シ〔何日〕間苦役ヲ為ル可キ旨ヲ申渡ス

一 又此裁判廳ニ於テ甲何某ヨリ乙何某ニ裁判費用ノ為メ通貨〔何帛〕ヲ償却ス可キ旨ヲ申渡ス

一 若シ右金額ヲ速カニ〔或ハ次回ノ何曜日或ハ

其前日〕償却セサル時ハ此裁判廳ニ於テ右甲何某ノ品物ヲ差押ヘ之ヲ糶賣ニ出シテ其金額ヲ徴収ス可シ

一 糶賣ノ上若シ不足ヲ生シタル時ハ此裁判廳ニ於テ甲何某ヲ右監獄ニ拘禁シ右裁判費用ノ金額ヲ速カニ償却スルニ非サレハ右記載シタル拘禁終期ノ後更ニ〔何日間〕苦役ヲ為

サシムル為メ入牢ヲ命ス可シ因テ此旨ヲ申渡スモノナリ

一千八百何年何月何日〔土曜日〕

〔在何地〕英國裁判所印

但シ品物差押ヘノ令状ヲ右罪人并ニ其家族ニ出ス可キ時又ハ其者ノ全ク金額ヲ徴

収スヘキ品物ヲ有セサルヲ認メタル時ハ
間ニ記シタル文章ニ換ヘ

此裁判廳ニ於テ直々ニ品物ヲ差押ヘ可キ令
状ヲ右甲何某并ニ其家族ニ出ス可シ或ハ品
物ヲ差押ヘ右金額ヲ徴収ス可キ時ニ当リ其
者ノ全ク品物ヲ有セサル時ハト記ス可シ

第四十九

品物ヲ差押ヘ贖罪金ヲ徴収シ若
シ不足ノ生シタルニ於テハ拘禁
ヲ命シ又ハ贖罪金ヲ命シテ其全
額ヲ償ハサルニ於テハ拘禁ヲ命
ス可キ簡易法罰状ノ書式

一 **職人** 甲何某ニ本日訟廷ニ於テ何々ノ罪状ノ
罰ヲ申渡ス此処ニ其罪状及ヒ拘禁ス可キ時
間并ニ場所ヲ記ス可シ

一 此裁判廳ニ於テ**何日**ニ照シ右甲何某ニ右ノ
罪状ニ換ヘテ**通貨** **何弗**ヲ上納シ并ニ裁判費
用ノ為メ**通貨** **何弗**ヲ右丙何某ニ償フ可キ旨
ヲ申渡ス

一 若シ右金額ヲ速カニ或ハ次回ノ何曜日或ハ
其前日償ハサル時ハ此裁判廳ニ於テ右甲何
某ノ品物ヲ差押ヘ之ヲ糶賣ニ為シテ其金額
ヲ徴収ス可シ

一 糶賣ノ上若シ不足ノ生シタル時ハ此裁判廳
ニ於テ右甲何某ヲ在何地英國領事館ニ屬ス

ル監獄ニ拘禁シ其者ノ速カニ右金額裁判費
用并ニ差押^レ拘禁護送等ノ雜費ヲ償フニ非^レリ
レハ何日間ノ苦役ヲ為サシムル為ノ入牢ヲ
命ス可シ因テ此旨ヲ申渡スモノナリ

一千八百何年何月何日〔土曜日〕

〔在何地〕英國裁判所印

但シ品物ヲ差押^レ可キ令状ヲ右罪人并ニ
其家族ニ出ス可キ時又ハ金額ヲ徴収ス可
キ時ニ當リ其者ノ全ク品物ヲ有セサルヲ
認メタル時ハ
間ニ記シタル文章ニ換

此裁判廳ニ於テ直チニ品物ヲ差押^レ可キ令
状ヲ右甲何某并ニ其家族ニ出ス可シ〔或ハ品

物ヲ差押ヘ右金額ヲ徴収ス可キ時ニ當リ具
者ノ全ク品物ヲ有セサル時ハト記ス可シ
但シ贖罪金ヲ命シテ其金額ヲ償ハサル時
拘禁ヲ命ス可キ罰状ニハ
間并ニ
間ニ記シタル文章ヲ省ク可シ

〔第五十〕

贖罪金ヲ命スル^レナク罰状ヲ以テ
入牢ヲ命シタル拘禁ヲ執行ス可キ
命令状ノ各式

此裁判廳ノ警察官吏
何某并ニ〔在何地何々
ニ属スル〕監獄吏へ

一〔職人〕甲何某ハ訟廷ニ於テ〔何月何日〕付ノ罰状

一 以テ何々ノ罪状ノ罰ヲ命セラレタリ〔其処
 = 罰状ニ記載シタル罪状ヲ記ス可シ〕
 一 右罪状ノ為ノ甲何某ヲ〔在何地何々ニ属スル〕
 監獄ニ拘禁シ何日間苦役ヲ為ス可キ旨ヲ罰
 状ヲ以テ申渡セリ
 一 故ニ右警察官吏何某右甲何某ヲ捕縛ノ上之
 ヲ右ニ記載シタル監獄ニ護送シ以命令状ト
 共ニ其者ヲ獄吏ニ交付ス可シ
 又右監獄吏、甲何某ヲ受取リタル上之ヲ其
 監獄ニ拘禁シ〔何日間〕苦役ヲ為サシノ以テ其
 監護ヲ為ス可シ因テ此旨ヲ汝等ニ命スルモ
 ノナリ
 一千八百何年何月何日〔土曜日〕

〔在何地〕英國裁判所印

〔第五十二〕 先ツ品物ノ差押ヲ命スルヲナク
 罰状ヲ以テ贖罪金ヲ命シタル様
 罪人ヲ拘禁ス可キ命令状ノ書式

此裁判廳ノ警察官吏
 何某共ニ〔在何地何々
 ニ属スル〕監獄吏、

一 〔職人〕甲何某ハ訟廷ニ於テ〔何月何日〕付ノ罰状
 ヲ以テ何々ノ罪状ノ罰ヲ命セラレタリ〔其処
 = 罰状ニ記載シタル罪状ヲ記ス可シ〕
 一 右罪状ニ換ヘ甲何某ヨリ罰状ニ記セシ如ク

通貨(何帛)ヲ出シ且ツ裁判費用ノ為ノ通貨(何帛)ヲ乙何某ニ償却ス可キ旨ヲ罰状ヲ以テ申渡セリ

一 若シ右金額ヲ速カニ(或ハ何日迄)償ハサル時ハ甲何某ヲ右ニ記載シタル監獄ニ拘禁シ其金額(并ニ裁判費用護送入費ヲ併セ)之ヲ速ニ償フニ非サレハ(苦役ヲ為ラシムル為メ)入牢ヲ命ス可キ旨モ亦之ヲ申渡セリ

一 然レ氏右甲何某其金額ヲ償ヒ以テ罰状ノ趣旨ヲ遵奉セス

一 故ニ右警察官吏ハ右甲何某ヲ捕縛ノ上右ニ記載シタル監獄ニ護送シ以テ命令状ト共ニ其者ヲ獄吏ニ交付ス可シ又右監獄吏ハ其者ヲ

受取リタル上之ヲ其監獄ニ拘禁シ其者ノ右金額(并ニ裁判費用護送入費ヲ併セ)之ヲ速ニ償フニ非サレハ(何日間)苦役ヲ為ラシメ以テ其監獄ヲ為ス可シ因テ此旨ヲ汝等ニ命スルモノナリ

一千八百何年何月何日(土曜日)

(在何地)英國裁判所印

(第五十二) 罰状ヲ以テ贖罪金ヲ命シ又ハ罪人ヲシテ贖罪金ヲ出サシメス裁判費用ヲ償フ可キヲ命シタル時其者ノ品物ヲ差押フ可キ命令状ノ書式

以裁判廳ノ警察官吏

何某へ

一 職人甲何某ハ訟廷於テ何月何日付ノ罰状ヲ以テ何々ノ罪状ノ罰ヲ命セラレタリ以処ニ罰状ニ記載シタル罪状ヲ記ス可シ

一 右罪状ニ換ヘ甲何某ヨリ罰状ニ記載シタル金額ヲ出シ共ニ裁判費用ノ為メ何弗ヲ乙何某ニ償フ可キ旨ヲ罰状ヲ以テ申渡セリ

一 若シ甲何某ノ右金額ヲ速カニ或ハ何日迄ニ償ハサル時ハ其所有スル品物ヲ差押ヘテ之ヲ糶賣ニ為シ以テ其金額ヲ徴收ス可キ旨モ亦之ヲ申渡セリ

一 然レモ右甲何某其金額ヲ償ヒ以テ罰状ノ趣

旨ヲ遵奉セス

一 故ニ汝ハ速カニ右甲何某ノ所有スル品物ヲ差押ヘ若シ其者ノ差押執行ノ後何日内ニ右等ノ金額共ニ相当ナル差押費用ヲ償ハサル時ハ其品物ヲ糶賣ニ為シ之ヲ法則ニ照シテ其処分ヲ為ス可キ為メ其金額ヲ裁判廳ニ出シ若シ残額アル時ハ右甲何某ノ願ニ因リ之ヲ其者ニ交付ス可シ又差押ヲ可キ品物ノアラサル時ハ之ヲ法則ニ照シ更ニ其処分ヲ為ス可キ為メ其趣ヲ以裁判廳ニ証明ス可シ因テ此旨ヲ汝ニ命スルモノナリ

一千八百何年何月何日(土曜日)

(在何地)英國裁判所印

但シ罪人ヨリ贖罪金ヲ出サス裁判入費ノ
ミヲ償フ可キ時ハ、
票ヲ附シタル金額ノ文字ヲ單數ニ記ス可
シ、
間ノ文章ヲ省キ鈞

第五十三

命令状中ニ記載シタル品物ヲ差
押フル能ハルニ因リ官吏ノ其趣
ヲ報スル復命昏ノ書式

一私儀命令状ノ効ヲ以テ甲何某ノ所有スル品
物ヲ力ノテ探索セシト虽モ金額ヲ徴収ス可
キ品物ヲ全ク見出スヲ能ハス因テ以趣ヲ裁
判廳ニ証明スルモノナリ

一千八百何年何月何日〔土曜日〕

警察官吏何某

〔在何地〕英國裁判所

第五十四

差押フ可キ品物ヲ所有セラルニ
因リ其者ヲ拘禁ス可キ命令状ノ
書式

以裁判廳ノ警察官吏
何果花ニ〔在何地〕何々
ニ属スル監獄吏ハ

一〔以〕ニ第五十二ノ書式ニ準シタル品物差押
ノ命令状ニ記載シタル最初ノ命令ヲ記シ然

ル後左ノ如ク記ス可シ

一 一千八百何年何月何日 以裁判廳ヨリ右官吏

何果ニ令状ヲ出シ甲何果ノ所有スル品物ヲ

差押フ之ヲ糶賣ニ為シテ右金額 共ニ裁判費

用ノ金額ヲ徴収ス可キ旨ヲ命セリ

一 右令状ノ復命ニ因リ以裁判廳ニ於テ右甲何

果ノ所有シタル品物ヲ探索セシト虽モ全ク

金額ヲ徴収ス可キ品物ヲ見出ス能ワルヲ認

ノタリ

一 故ニ右警察官吏何果ハ甲何果ヲ捕縛ノ上右

ニ記載シタル監獄ニ安全ニ護送シ以命令状

ト共ニ具者ヲ獄吏ニ交付ス可シ又其監獄吏

ハ其者ヲ受取りタル上之ヲ其監獄ニ拘禁シ

右金額等 或ハ金額 共ニ裁判費用差押入費 護

送拘禁費用等ヲ速カニ償フニ非サレハ 何日

間 若役ヲ為サレノ以テ其者ヲ監護ス可シ 因

テ以旨ヲ汝等ニ命スルモノナリ

一千八百何年何月何日 土曜日

在何地 英國裁判所印

第五十五 罪状ヲ取消ス可キ命令状ノ書式

一 職人 甲何果ハ一千八百何年何月何日以裁判

廳ニ何々ノ罪状ヲ告訴セラレタリ 以処ニ呼

出状或ハ命令状ニ記載シタル罪状ヲ記ス可

シ

一 以裁判廳ニ於テ双方出席ノ上右罪状ヲ問糾
 シ裁断ヲ為ス可キ時ニ當リ右甲何某ハ訟廷
 ニ出席セシト雖モ乙何某具席ニ出席セス
 一之レニ因リ以裁判廳ニ於テ右罪状ノ証拠確
 定セサルニ因リ公然之ヲ取消ス可キヲ正当
 ト認メタリ

一 故ニ右乙何某以裁判費用ノ為メ通貨(何帛)ヲ
 甲何某ニ償フ可シ若シ速カニ(或ハ何日迄)之
 ヲ償ハサルハ以裁判廳ニ於テ具者ノ所有
 スル品物ヲ差押ヘ之ヲ糶賣ニ為シテ右金額
 ヲ徴收シ若シ不足ノ生シタル時ハ具者ヲ(在
 何地何々ニ属スル)監獄ニ拘禁シ右金額并ニ
 裁判費用差押入費及ヒ護送拘禁費用等ヲ速

カニ償フニ非ラレハ(苦役ヲ為サシムル為メ
 入牢ヲ命ス可シ)因テ以首ヲ乙何某ニ申渡ス
 モノナリ

一千八百何年何月何日(土曜日)

(在何地)英國裁判所印

但シ問糾ノ時罪状告訴人ノ出席セサル時
 ハ(問ニ記シタル文章ヲ省ク可シ)

(第五十六) 罪人ニ交付ス可キ罪状ノ取消証
 書ノ書式

一 以裁判廳ニ於テ(職人)乙何某ヨリ告訴セシ(何
 月何日)職人甲何某ノ犯シタル何々ノ罪状ヲ

〔以〕呼出状或ハ命令状ニ記載シタル罪状ヲ記ス可シ〔取消シ〕其裁判費用ヲ命ス可シ〔因テ以旨ヲ証スルモノナリ〕

一千八百何年何月何日〔土曜日〕

〔在何地〕英國裁判所印

〔第五十七〕罪状取消ヲ命シタル後某告訴人ヨリ裁判費用ヲ償ハシムル為ノ品物ヲ差押フ可キ命令状ノ書式

以裁判廳ノ警察官吏何某ハ

〔職人〕甲何某ハ〔一千八百何年何月何日〕以裁判

廳ニ何々ノ罪状ヲ告訴セラレタリ〔以〕呼出状或ハ命令状ニ記載シタル罪状ヲ記ス可シ

其以後以裁判廳ニテ双方出席ノ上右罪状ヲ同糺シ裁断ヲ為ス可キ時ニ当リ甲何某ハ訟廷ニ出席セシト雖モ乙何某ノ出席セサルニ因リ以裁判廳ニ於テ右罪状ノ証拠確定セサルヲ認シ因テ之ヲ取消シ乙何某ニ其裁判費用ノ為ノ通貨〔何弗〕ヲ甲何某ニ償ヒ且ツ若シ速カニ〔或ハ何日迄〕之ヲ償ハサル時ハ其者ノ所有タル品物ヲ差押ヘ之ヲ糶賣ニ為シテ其金額ヲ徴収ス可キ旨ヲ申渡セリ然レモ乙何某右金額ヲ償ヒ以テ令状ノ趣旨

ヲ遵奉セス

一 故ニ此裁判廳ニ於テ汝ニ命ス〔此処ニ第五十
二ノ書式ニ準シタル命令ヲ記ス可シ但シ犯
人甲何某ノ姓名ニ換ヘ告訴人乙何某ノ姓名
ヲ代書シ又鈎票ヲ附シタル金額ノ文字ヲ單
数ニ記ス可シ

一千八百何年何月何日〔土曜日〕

〔在何地〕英國裁判所印

〔第五十八〕

最尾ニ至リ差押ノ可キ品物ヲ有
セサルニ因リ其者ヲ拘禁ス可キ
命令状ノ書式

此裁判廳ノ警察官吏
何某并ニ〔在何地〕何々
ニ属スル〔監獄吏〕へ

一〔此処ニ最尾ノ命令状ニ記載シタル最初ノ命
令ヲ記シ然ル後左ノ如ク記ス可シ〕

一 一千八百何年何月何日〔此裁判廳ヨリ右官吏
何某ニ令状ヲ出シ〔此処ニ第五十四ノ書式ノ
如ク記ス可シ但シ犯人甲何某ノ姓名ニ換ヘ
告訴人乙何某ノ姓名ヲ代書ス可シ〕
一千八百何年何月何日〔土曜日〕

〔在何地〕英國裁判所印

那日本在英國裁判廳手数料表

民事訴訟ニ付キ呼出狀、訴狀、歎願書、廣告狀、逮

捕狀、裁決狀、命令書、及ヒ其他ノ公書、答辯書等

ノ送達ノ為メ、訴訟人、証人、誓詞人、補助人、及ヒ

其他ノ者ニ課ス可キ手数料

裁判所々在ノ地ヨリ一里以内

全上一里以外每一里

答弁書

定則ニ拠ラサル爭論裁決ニ係ル部

結末或ハ控訴呼出狀

結末申渡狀或ハ控訴狀

問糺料

壹帛
半帛

七帛

五帛

七帛

死亡者ノ財産処分ニ付キ簡易法
裁判ニ係ル部

呼出状

命令状

訴訟ヲ為ス前簡易法命令ニ係ル部

命令ヲ乞フ可キ願書

約定証書

命令状

破産及ヒ其整理ニ係ル部

分散言渡ヲ乞フノ訴状

全上ニ付キ命令状

全上ニ付キ監財人ノ命令状但シ一人ニ付

會議及ヒ會議延期料

法律

五吊
五吊
二吊半

二十吊

十吊

五吊

十吊

諸廣告入費但シ印刷料ハ除ク

借金ヲ償還セシムル命令状

分散言渡ノ取消ヲ乞フノ訴状

全上取消ノ命令状

公撰監財人禮金

債主ニ渡シ置ク可キ財産引渡証昏及ヒ破産

整理ニ付テノ他ノ証書財産ノ價高ノ百分ノ一五

海上事件ニ係ル部

側量願書

全上免許状

側量師一人ノ謝金

側量報告書廣告及ヒ謄写料

十吊
五吊

五吊

五十吊

十吊

二十吊

百分ノ二

司書

海上案内人命令願

全上一人ノ謝金

請合証書廣布料

荷主代理人ニ課スヘキ金額

右ノ金額ハ裁判廳適宜至当ノ見込ニ任ス但
シ該事件ヲ分廳へ願出ルル中ハ上廳ノ意見
ヲ乞フ可シ

遺囑証書及遺物処分ニ係ル部

遺囑証書及遺物処分狀得テテ願書 五 帛

受托人遺物処分人及証人ノ誓詞 三 帛

遺囑証書及遺物処分狀

該額ハ当時英國ニ於テ課スル所ノ捺印
料ト同シ但シ遺物処分人ヲ公撰セシ時

ハ之レニ其百分ノ一ヲ加フ

全上ニ付キ遺產目錄ノ調製料 五 帛

全上順違料 十 帛

通常訴訟外ニ記載セシ諸件

金高百帛以下ノ訴訟 呼出狀及シ許狀料共一帛

同百帛以上二百五十帛以下ノ訴訟 同 二帛

同二百五十帛以上ノ訴訟 同 二帛

金錢償却ニ関セスニテ裁判廳ノ

救助ヲ乞フ時ハ 同 十帛

呼出狀ヲ乞ヒ或ハ諸願書ヲ差出ス時ハ一帛

但シ格別ノ場合ナル中ハ以限ニ非ス

裁決狀及ヒ命令狀 一 帛

但シ前同断

陪審吟味ノ後再審ヲ乞フ可キ願書 五弗
原被ノ内一方ノ欠席ニヨリ問糺延
期命令状 三弗

但シ欠席ニ付償却ス
物品差押命令状

金高二百五十弗以下 二弗
同二百五十弗以上 五弗

諸物品看守料 一百ニ付 三弗

裁判上廳へ控訴ノ部

控訴免許ヲ乞フノ願書
金高千二百五十弗以上 五弗
同千二百五十弗以下 二弗半

諸保証料

金高千二百五十弗以上 五弗
同千二百五十弗以下 二弗半

控訴免許命令状

金高千二百五十弗以上 十弗
同千二百五十弗以下 五弗

分散言渡不服ノ控訴 問訊状及ヒ願書料共 廿廿弗

全上ニ付借金償却ノ命令状ヲ乞フタル時
其許可或ハ遅延或ハ許可セサル事ニ付控

訴 同 廿廿弗

金錢償却ニ関セスニテ裁判廳ノ

救助ヲ乞フ時 同 十弗

前ニ記列シタル諸件外ノ控訴 同 金高 百廿ノ二

英國女王陛下へ上告ノ部

上告免許願書

十五弗

全上保証料

十五弗

全上命令状筆記料但し通送費用ヲ罷ム廿五弗
右ハ裁判所ノ見込ヲ以テ課ス

雜事ノ部

金錢預リ料

金高百分ノ二、五

公賣計算書遺囑状會社契約書或ハ他

ノ書類ヲ保全シ或ハ簿冊登記料 五弗

公賣計算書廣告料

五弗

財産目錄調製料

一日ニ付 五弗

為替手形公布及テ筆写料

二弗

全上ニ付公達料

一弗

誓約書認取料

一弗

遺囑状筆記料

右ハ裁判所ノ見込ヲ以テ課ス

諸捺印料

一弗

公賣ノ節出席料

賣捌高五百弗以下

一弗

同 五百弗以上

金高百分ノ二

記録ニ登記手數料

五十セント

全上筆記料

百語以内

一弗

百語以上每百語

五十セント

諸書類ヲ日本支那和蘭ノ國語ニ
反譯料

但シ裁判所ノ見込ヲ以テ課ス
全上ノ外他ノ國語ニ反譯料

二百語以内

十弗

二百語以上毎二百語

二弗半

各裁判廳公書往復料

二弗半

外國領事館及日本支那

ノ官廳ハ公書往復料

五弗

英國官吏日本支那ノ官廳或ハ裁

判廳ニ出席料

金高千二百五十弗以下

五弗

同 千二百五十弗以上二千五百弗以下、十弗

同二千五百弗以上五千弗以下、廿弗
同五千弗以上 五十弗

刑事ノ部

呼出状及逮捕状

五十セント

但シ裁判廳ノ特命ヲ以テ發出スル時ハ以

限ニ非ス

簡易法問糺料

五十セント

繫獄状

五十セント

証書或ハ他ノ保証料

五十セント

誓詞人及ヒ輔助人ハ送書送達料

五十セント

陪審吟味料

五弗

陪審吟味ノ裁判言渡書筆記料 五弗
諸公書筆記料 但ニ民事ノ高ト異ナルナシ

裁判上廳へ控訴ノ部

簡易法裁判ニ付キ控訴願書 五弗

令上ニ付別段出ス可キ始末書 五弗

簡易法裁判ニ付キ控訴 五弗

法律上ノ控訴 十五弗

令上ニ付キ証書或ハ他ノ 五弗

保証料 五弗

英國女王陛下へ上告ノ部

但ニ民事上告手数料ト都テ異ナル

ナシ

